

新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会

医師の勤務実態及び働き方の 意向等に関する調査

平成29年4月6日

厚生労働科学特別研究

「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」研究班

厚生労働省医政局

「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」の概要

現在の医師の勤務実態や、働き方の意向・キャリア意識を正しく把握することを目的に、「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」を実施。

調査対象

- ◆ 全国の医療施設に勤務する医師(病床規模等により層化無作為抽出した医療施設に勤務する医師)を対象とした。また、医療施設に対しても調査を実施。(調査実施日:平成28年12月8(木)～14日(水))
- ◆ 調査対象数は全国の医師約10万人と、初めての大規模全国調査。(回収済:15,677人)

調査内容

- ◆ 次の項目について重点的に調査を実施。
 - ① 出身地・出身医学部所在地・家族構成・収入等を含む、医師の属性に関する項目
 - ② 医師の勤務実態を詳細に把握するためのタイムスタディに関する項目
 - ③ 他職種との役割分担やキャリア意識等の将来の働き方に関する項目
 - ④ 将来の勤務地に関する意向等の医師偏在対策に関する項目

結果の概要

※()内は該当するページ番号

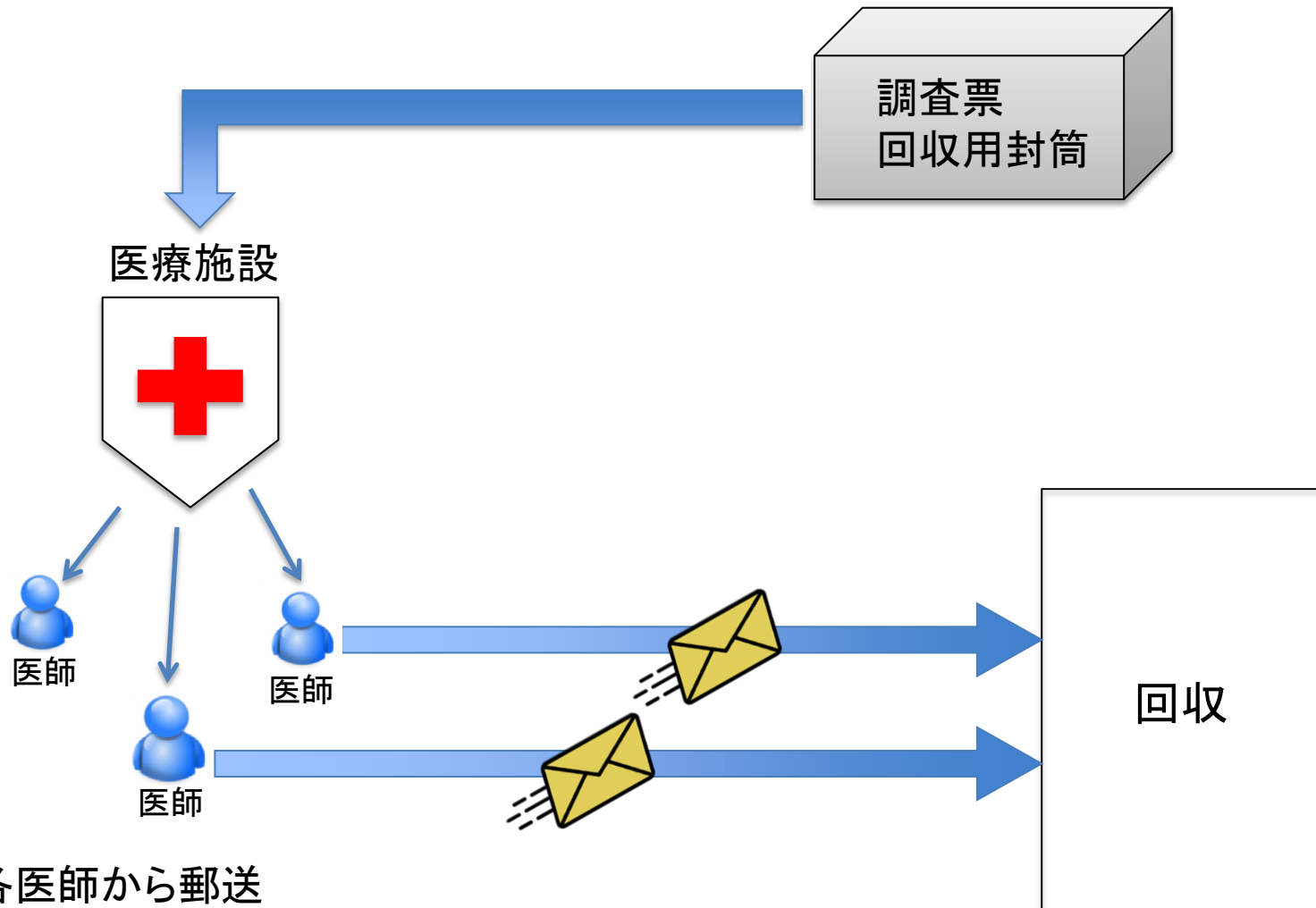
- ◆ 勤務時間について、性別、年代、勤務形態で大きく異なる。(p13～16)
 - ・ 20代勤務医(常勤)の「診療+診療外」の時間は週平均55時間程度。これに当直・オンコールの待機時間(男性約16時間、女性約12時間)が加わる。(p13)
- ◆ 育児中の働き方について、「休職・離職」した医師の専門医取得率は、他の働き方を選択した医師よりも有意に低い。(p18)
- ◆ 他職種との分担可能な業務について、調査した5種の業務に要する時間のうち1日当たり平均47分を分担可能。(p20～21)
- ◆ 医師のキャリア意識について、年代が高くなると、希望がより多様化する。(p23)
- ◆ 地方勤務する意思がある医師の割合は約半数(p24)、長期間勤務する意思がある医師の割合が高い。(p25)
- ◆ 地方勤務を希望する期間は年代で変化。若い医師は「2～4年」を多く選択する一方、年代が高くなるにつれて「5～9年」や「10年以上」を選択する医師の割合が増える。(p26)
- ◆ 地方勤務を希望する意思がない理由も年代と共に変化。20代医師は、「専門医資格の取得」が特徴的。30・40代医師は、「子供の教育」が理由として高い。どの年代でも「仕事内容」、「労働環境」が共通の障壁。(p27～29)

調査について

- 医師調査票：約10万人を調査対象として配布
- 医療施設票：12,035 施設に配布
 - 病院：2,331 件
- 回収数
 - 医師調査票：15,677 件
 - 医療施設票： 3,126 件

配布・回収方法

- 医療施設に調査票と回収用封筒を送付。
- 医師のプライバシーを保護するため、回収は、医療施設を介さず、各医師が個別に回収用封筒で回答を送付。

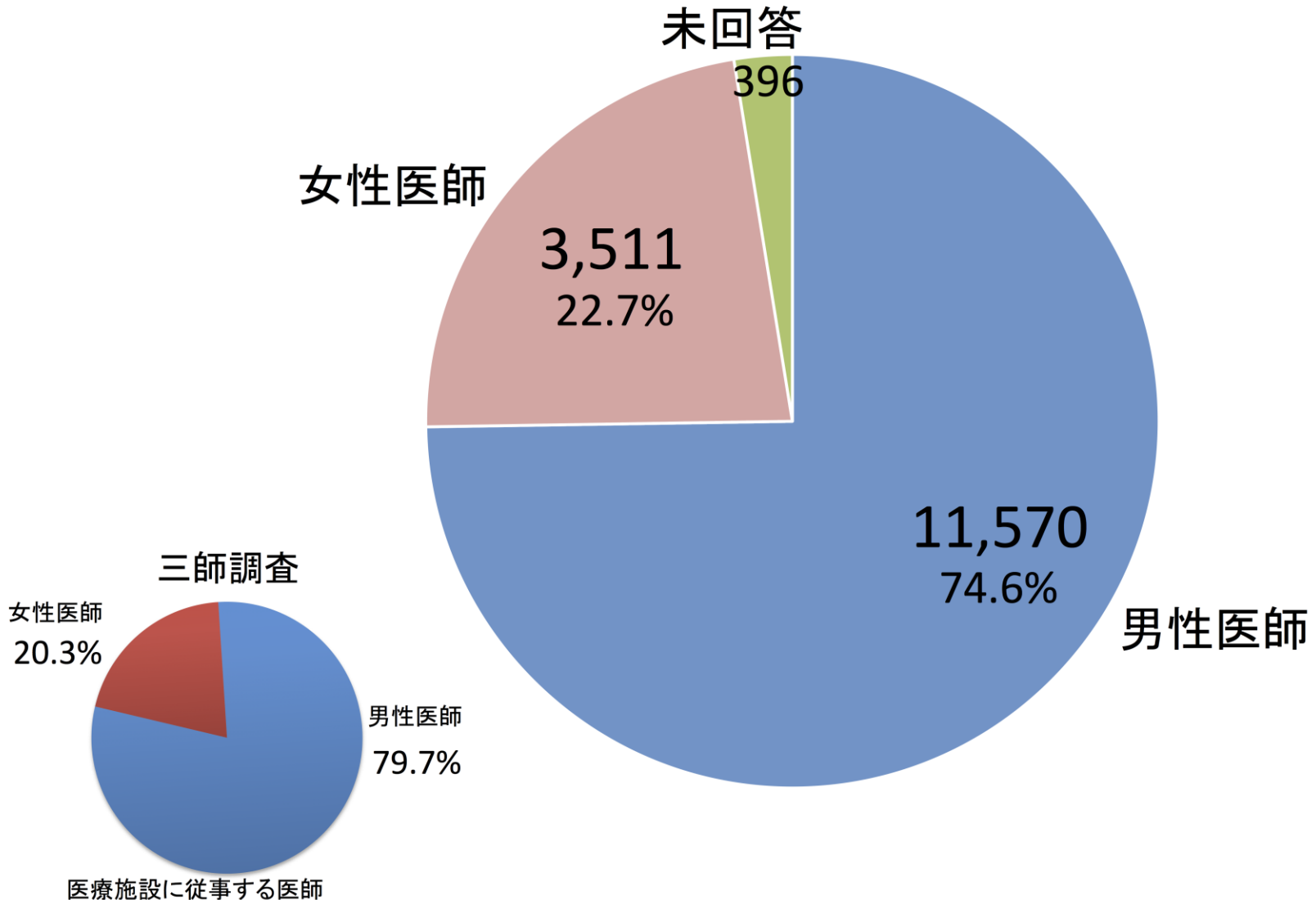


各医師から郵送
医師のプライバシーを保護

性別の割合

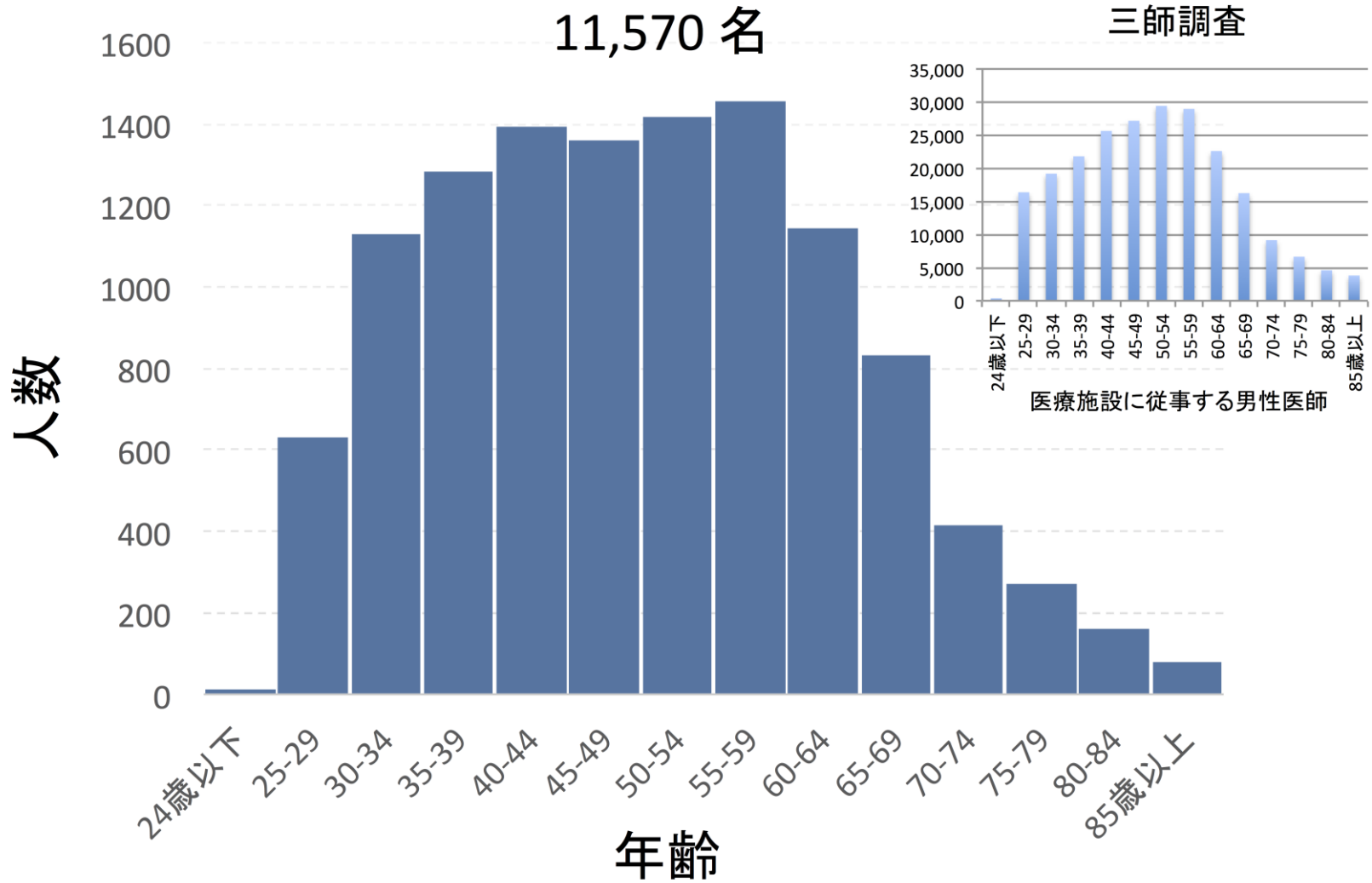
○ 回答者の23%が女性医師。

※ 三師調査における女性医師の割合とほぼ同一。



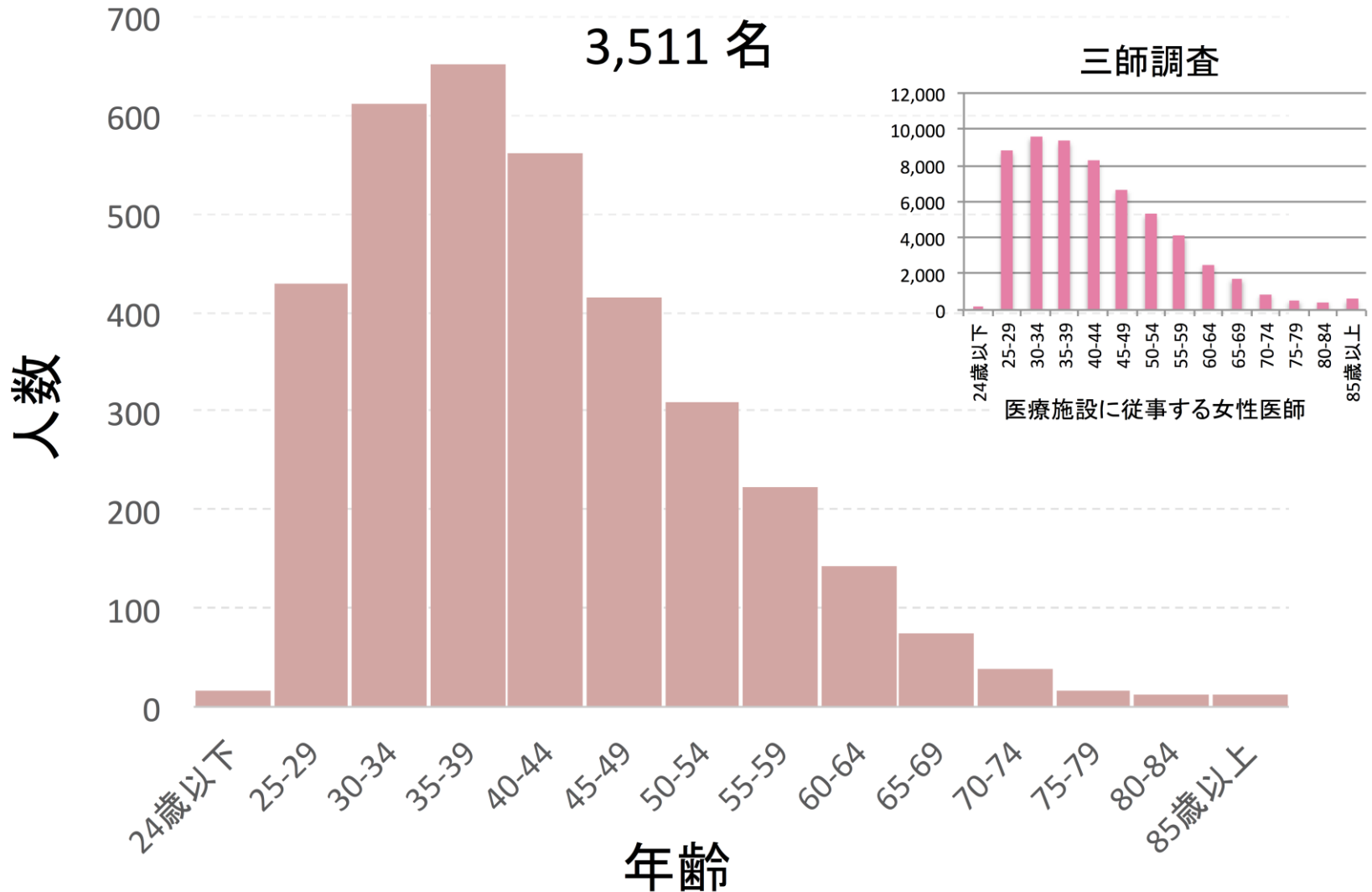
年齢分布(男性)

○ 三師調査の結果と比較すると、男性の回答者のうち、20代の回収率がやや低く、30代から40代前半の回収率はやや高い傾向にあるが、概ね分布を再現している。



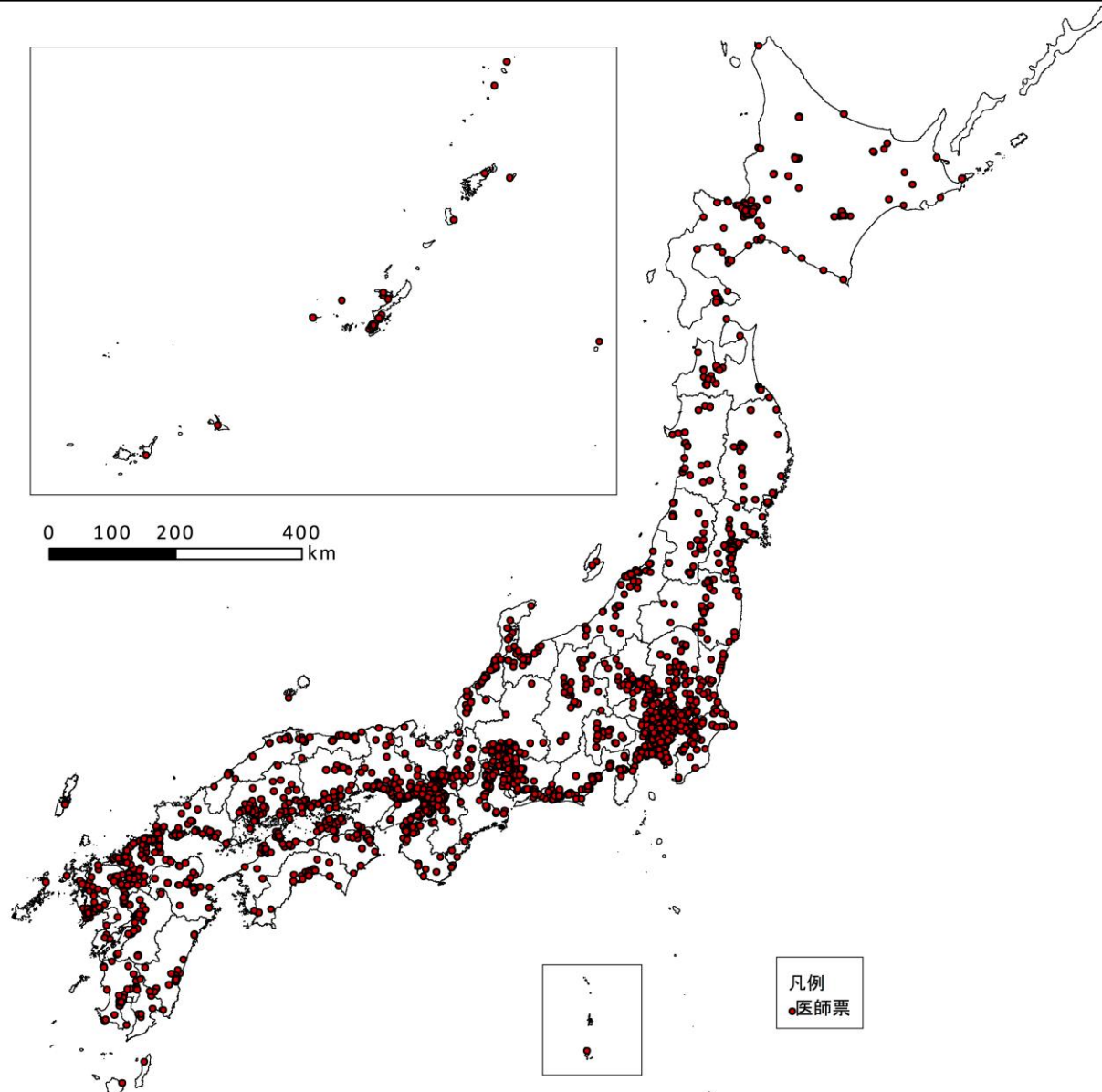
年齢分布(女性)

○ 三師調査の結果と比較すると、女性の回答者のうち、20・30代の回収率がやや低く、50代以上の回収率がやや高い傾向にあるが、概ね分布を再現している。



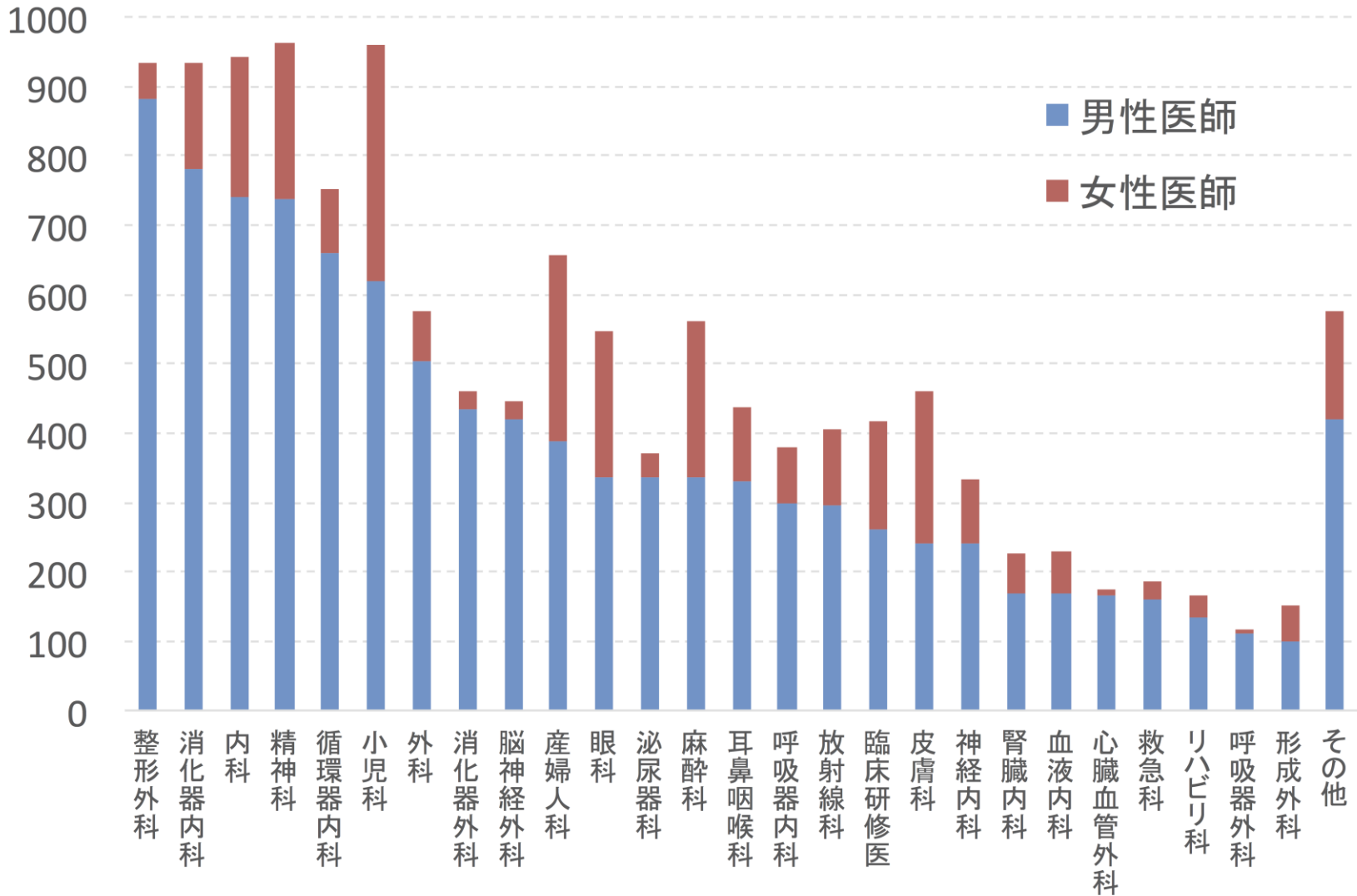
地理分布

○ 北海道の稚内市から沖縄県の石垣島まで、全国各地から回答が寄せられた。



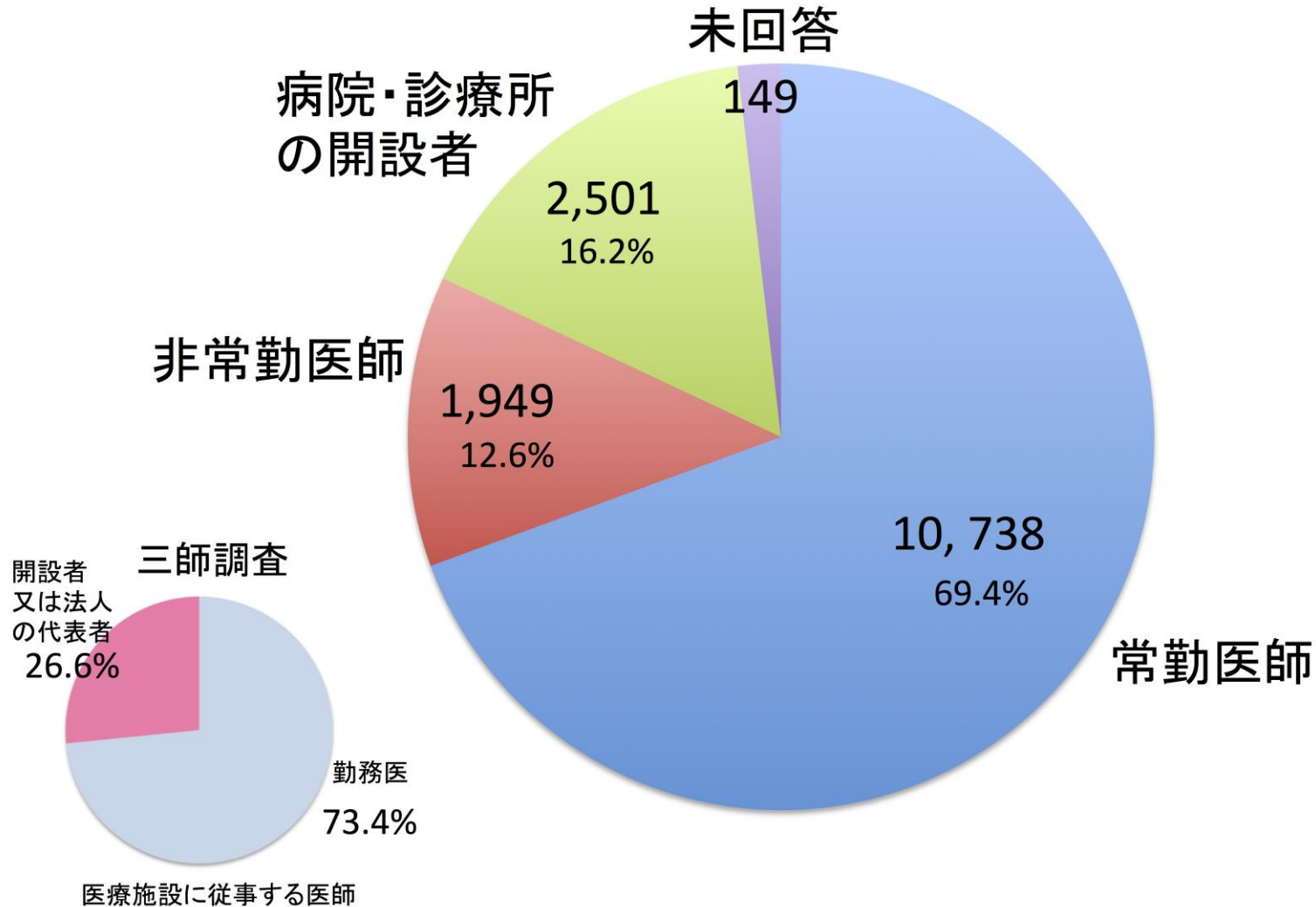
診療科の分布

○ 診療科の分布は、三師調査の結果と概ね一致し、内科系の診療科の回答が最も多い。



勤務形態

○ 非常勤医師についても約2,000件の回答があり、常勤・非常勤を合わせて勤務医について十分な分析が可能。開設者についても2,500以上の回答を得た。



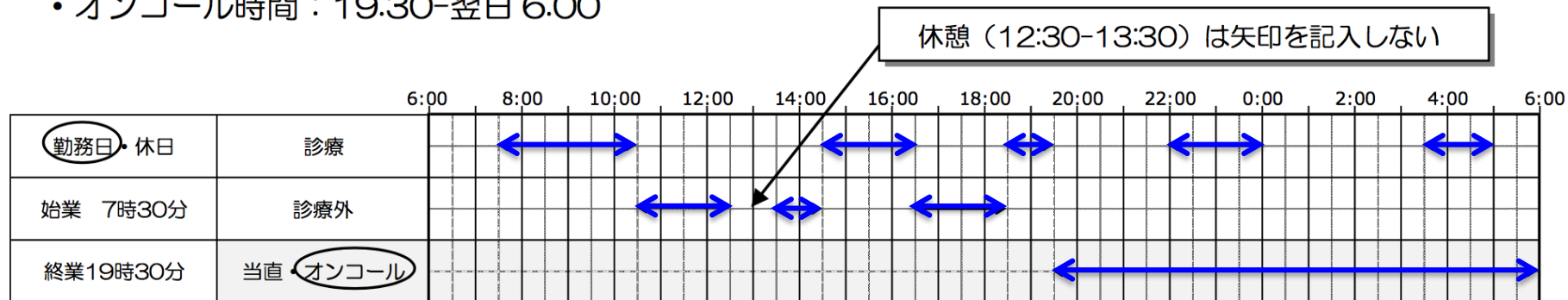
タイムスタディ

12月8日(木)～12月14日(水)の1週間
「診療」「診療外」「当直・オンコール」の時間について記録

《記入例》

○ 調査日が「勤務日」で「オンコール」がある場合。

- ・ 診療時間：7:30-10:30、14:30-16:30、18:30-19:30、22:00-24:00、翌日 3:30-5:00
- ・ 診療外時間：10:30-12:30、13:30-14:30、16:30-18:30
- ・ オンコール時間：19:30-翌日 6:00



○ 調査日が「休日」で「オンコール」がなく、「診療」「診療外」の業務も行わなかった場合は、矢印の記入は不要となります。

タイムスタディ:集計

○ 性別、年代別、勤務形態別に30分刻みのタイムスタディを集計。下右図は、調査初日の12月8日に20代男性の勤務医(常勤)が「いつ」「どのような業務をやっていたのか」を示している。

常勤の20代男性勤務医

Aさん



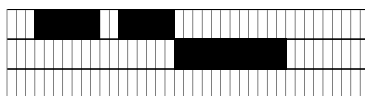
12月8日(木)



Bさん



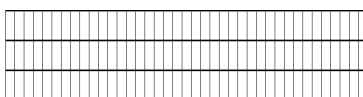
12月8日(木)



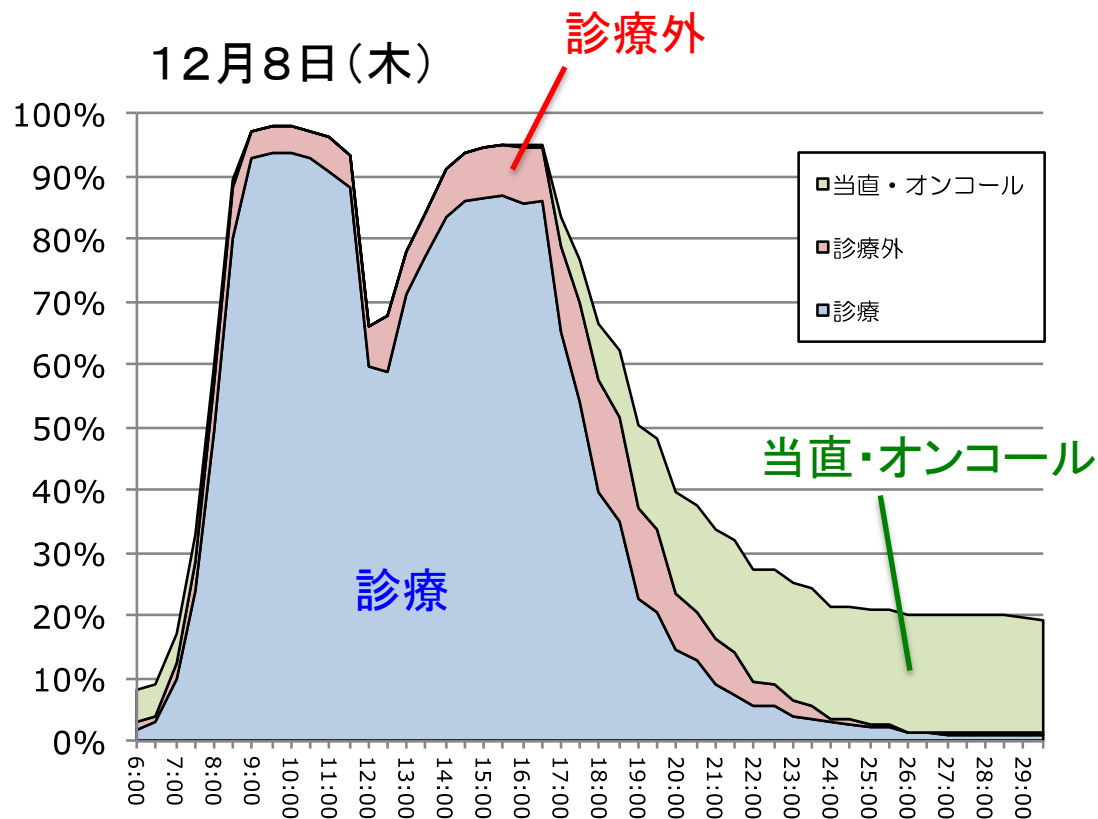
Cさん

休暇

12月8日(木)



12月8日(木)



集計された結果

縦軸:働いている20代男性勤務医(常勤)の割合
横軸:時間(30分刻み)

勤務時間(性別・年代別・勤務形態別)

- 勤務時間(「診療」+「診療外」)は、年代が上がるにつれて減少する。
- 20代の勤務医(常勤)の勤務時間は、週平均55時間程度。これに当直・オンコールの待機時間が加わる。

平均値(時間)

	男性	勤務医(常勤)		勤務医(非常勤)	
		診療+診療外	当直・オンコール	診療+診療外	当直・オンコール
このうち、待機時間は約16時間					
20代		57.3	18.8	55.8	14.2
30代		56.4	18.7	54.2	16.5
40代		55.2	17.1	45.5	8.6
50代		51.8	13.8	37.6	8.9
60代		45.5	8.0	30.3	5.0
	女性	勤務医(常勤)		勤務医(非常勤)	
		診療+診療外	当直・オンコール	診療+診療外	当直・オンコール
このうち、待機時間は約12時間					
20代		53.5	13.0	54.5	12.7
30代		45.2	10.7	36.7	4.9
40代		41.4	9.0	25.3	1.0
50代		44.2	7.8	25.5	1.8
60代		39.3	3.4	25.9	1.3

※表中の診療+診療外には、当直・オンコール中に行った診療・診療外の時間も含む

診療科別勤務時間(勤務医(常勤))

○ 救急科、外科、臨床研修医は勤務時間(「診療」+「診療外」)が特に長い傾向がある。

診療科	診療+診療外	当直・オンコール
内科系	51.7	12.6
外科系	54.7	16.5
産婦人科	50.6	22.8
小児科	50.2	16.0
救急科	55.9	18.4
麻酔科	49.1	16.7
精神科	43.6	11.9
放射線科	51.9	10.2
臨床研修医	53.7	13.5

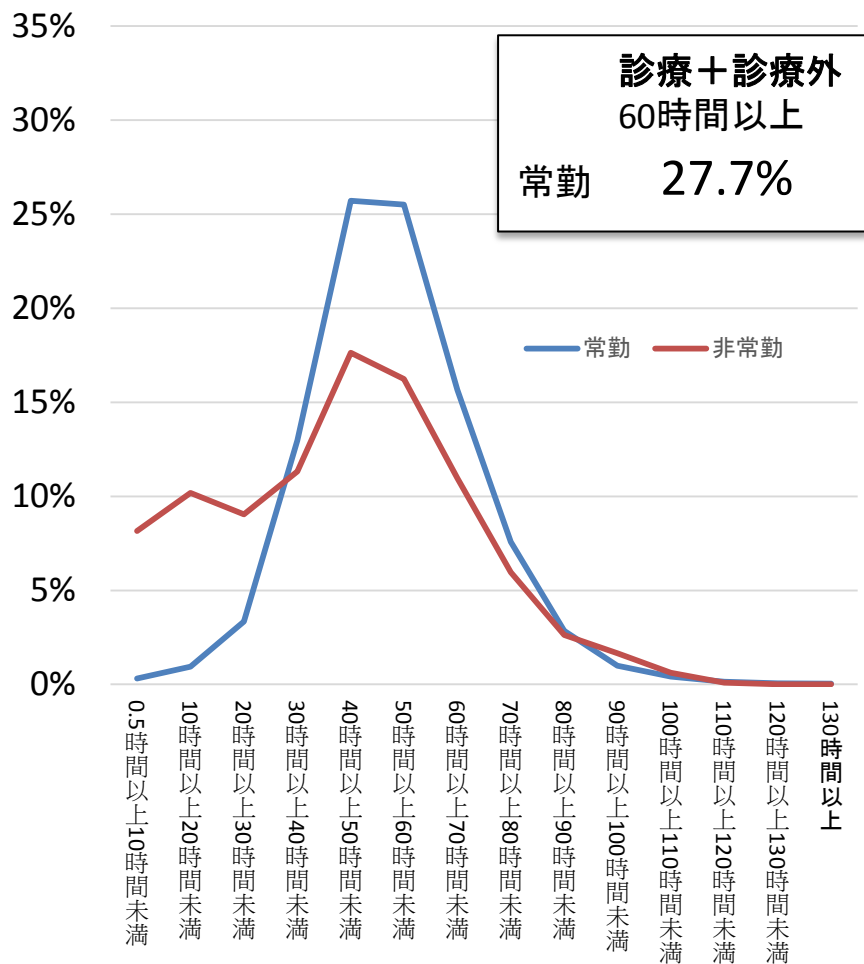
(時間)

※表中の診療+診療外には、当直・オンコール中
に行った診療・診療外の時間も含む

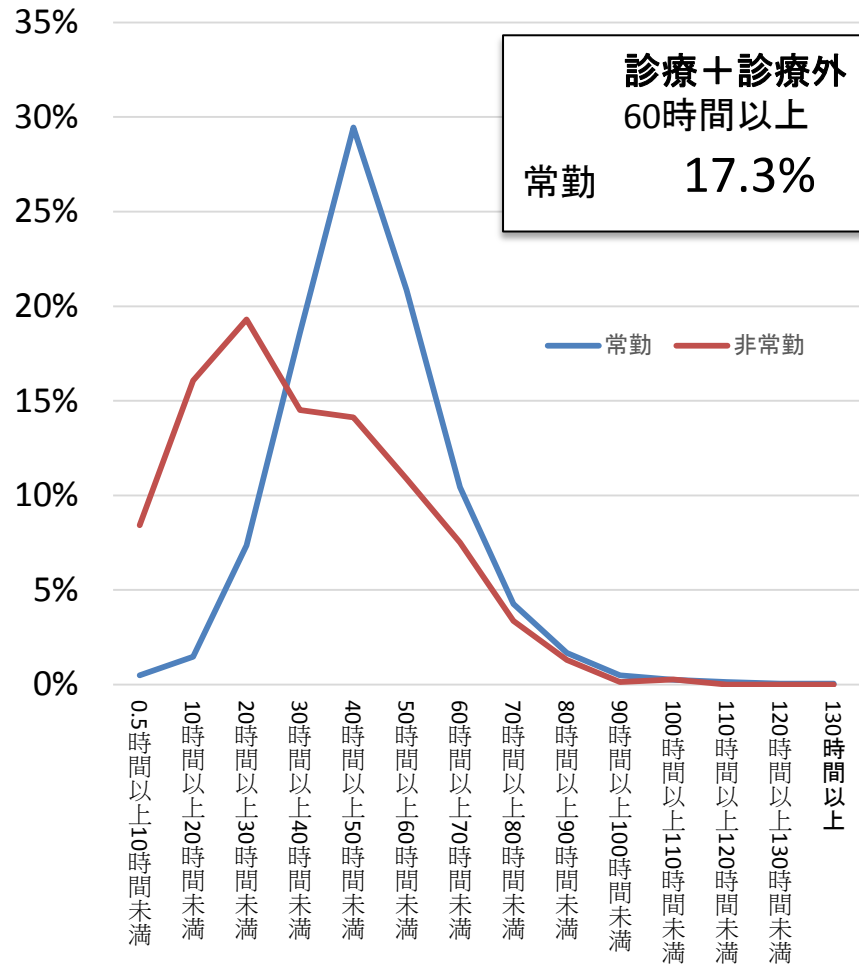
勤務医 勤務形態別「診療」+「診療外」時間分布

○ 男性の常勤勤務医のうち、勤務時間（「診療」+「診療外」）が週60時間以上は27.7%。
女性については、17.3%。

男性 勤務医



女性 勤務医



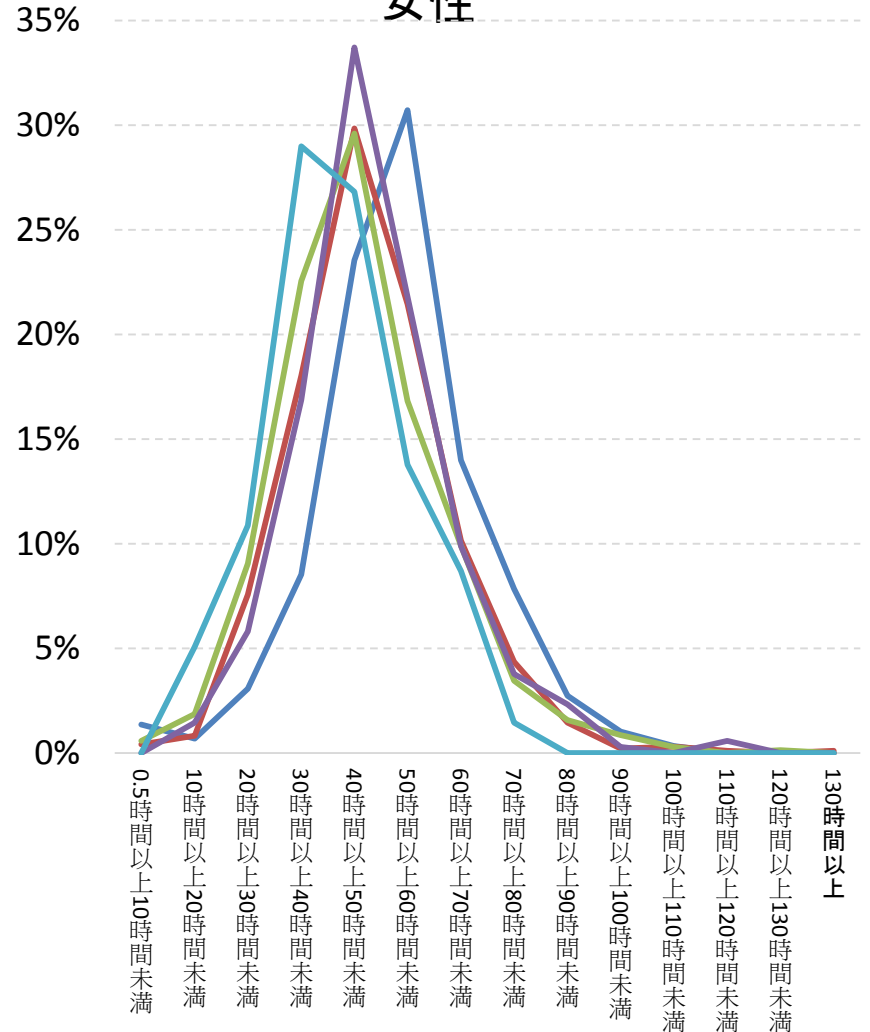
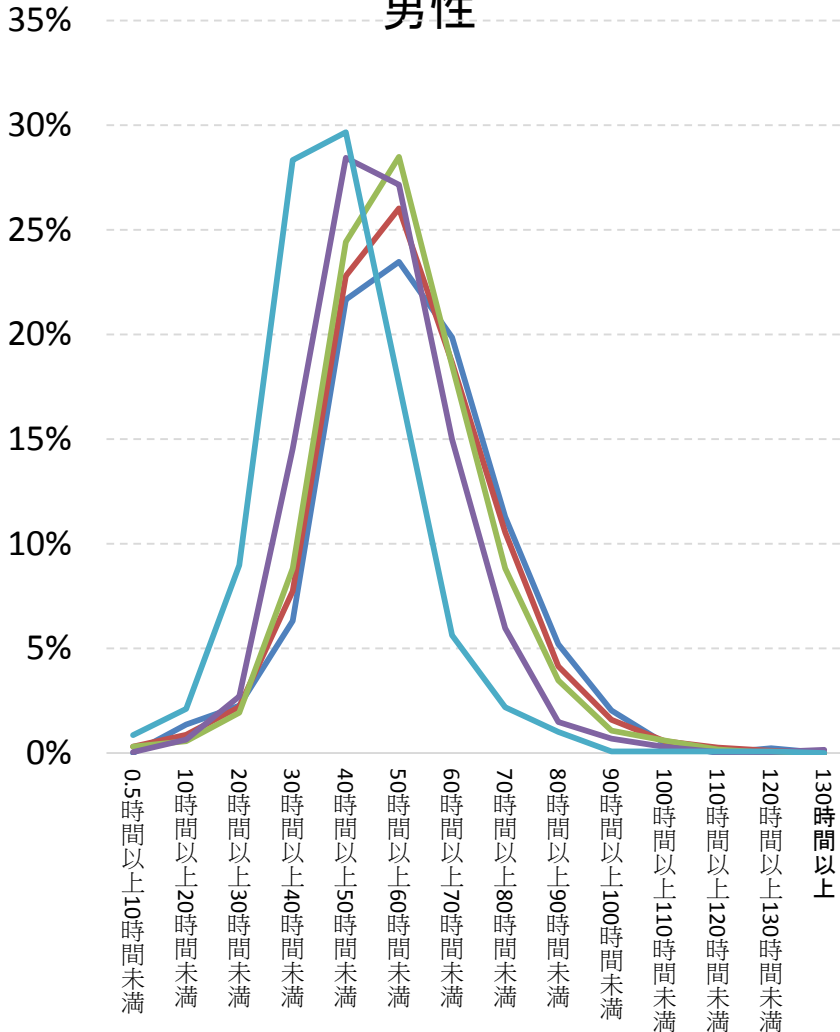
勤務医(常勤)「診療」+「診療外」時間分布 年代別

○ 男性の常勤勤務医は、20代～40代は「50～60時間」にピークがあり、50代以降、ピークが下がってくる。女性の常勤勤務医は、20代は「50～60時間」にピークがあり、30代～50代でピークがいったん下がり、60代でさらにピークが下がる。

— 20代 — 30代 — 40代 — 50代 — 60代以降

男性

女性



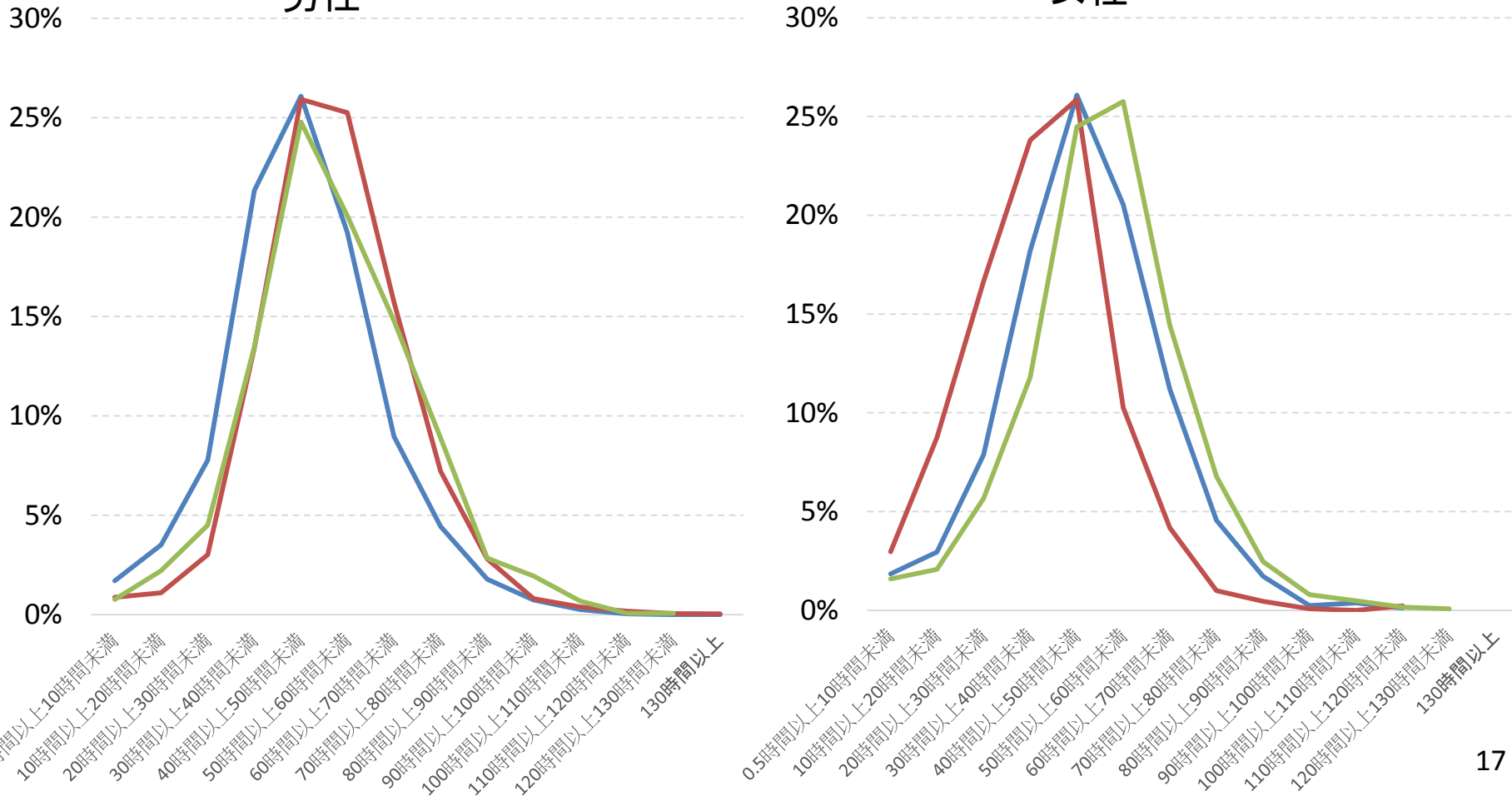
勤務医（常勤） 家族構成と「診療」+「診療外」時間分布

○ 子どもがいる場合は、いない場合と比較して、既婚の女性の常勤勤務医は勤務時間（「診療」+「診療外」）が短くなる傾向がある一方、既婚の男性の常勤勤務医は勤務時間が長くなる傾向がある。

— 未婚・子なし — 既婚・子なし — 既婚・子あり

男性

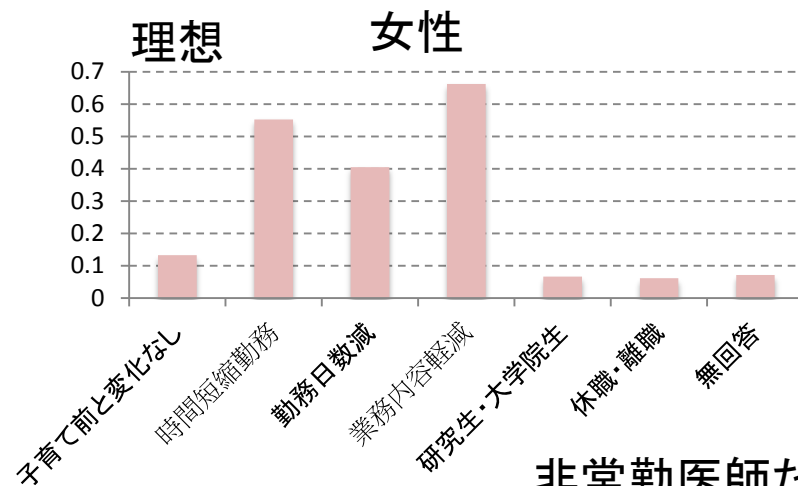
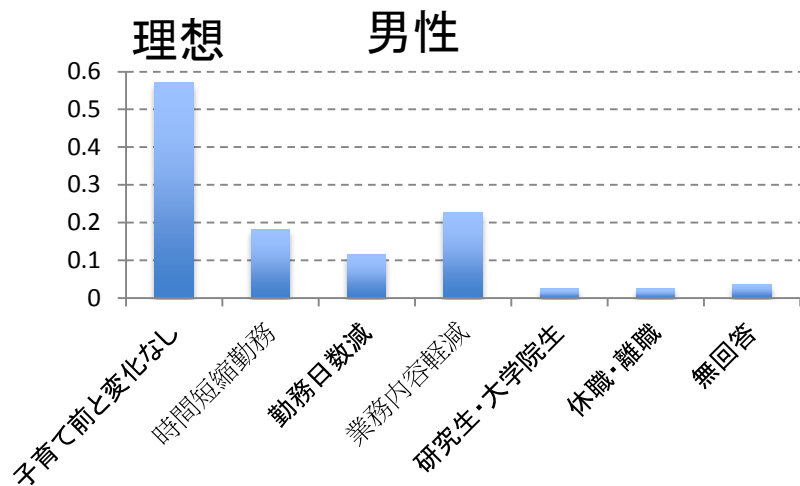
女性



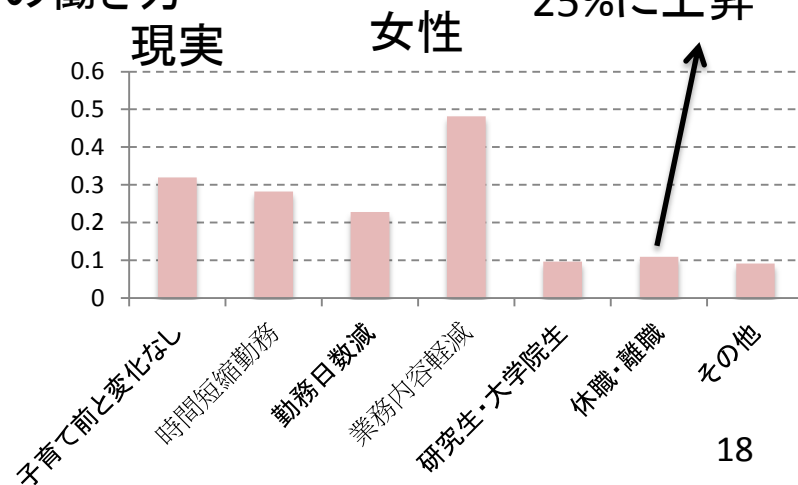
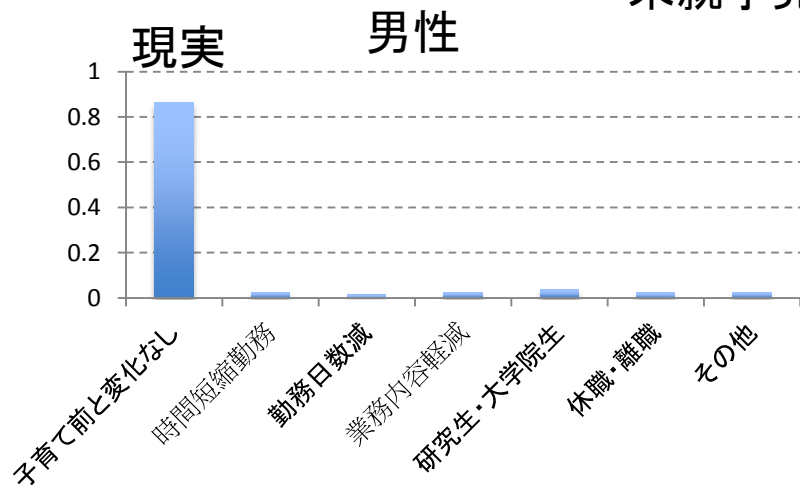
育児中の働き方(常勤医師)

- 男性医師は、未就学児の育児中、子育て前と同じ働き方を希望する割合が最も多く、実際に子育て前と同じ働き方をしている割合は約8割。
- 女性医師は、「時間短縮勤務」「勤務日数減」「業務内容軽減」を希望する割合が多い。また、現在常勤医師の1割、非常勤医師の4分の1が「休職・離職」を経験。

未就学児の育児中に希望した働き方

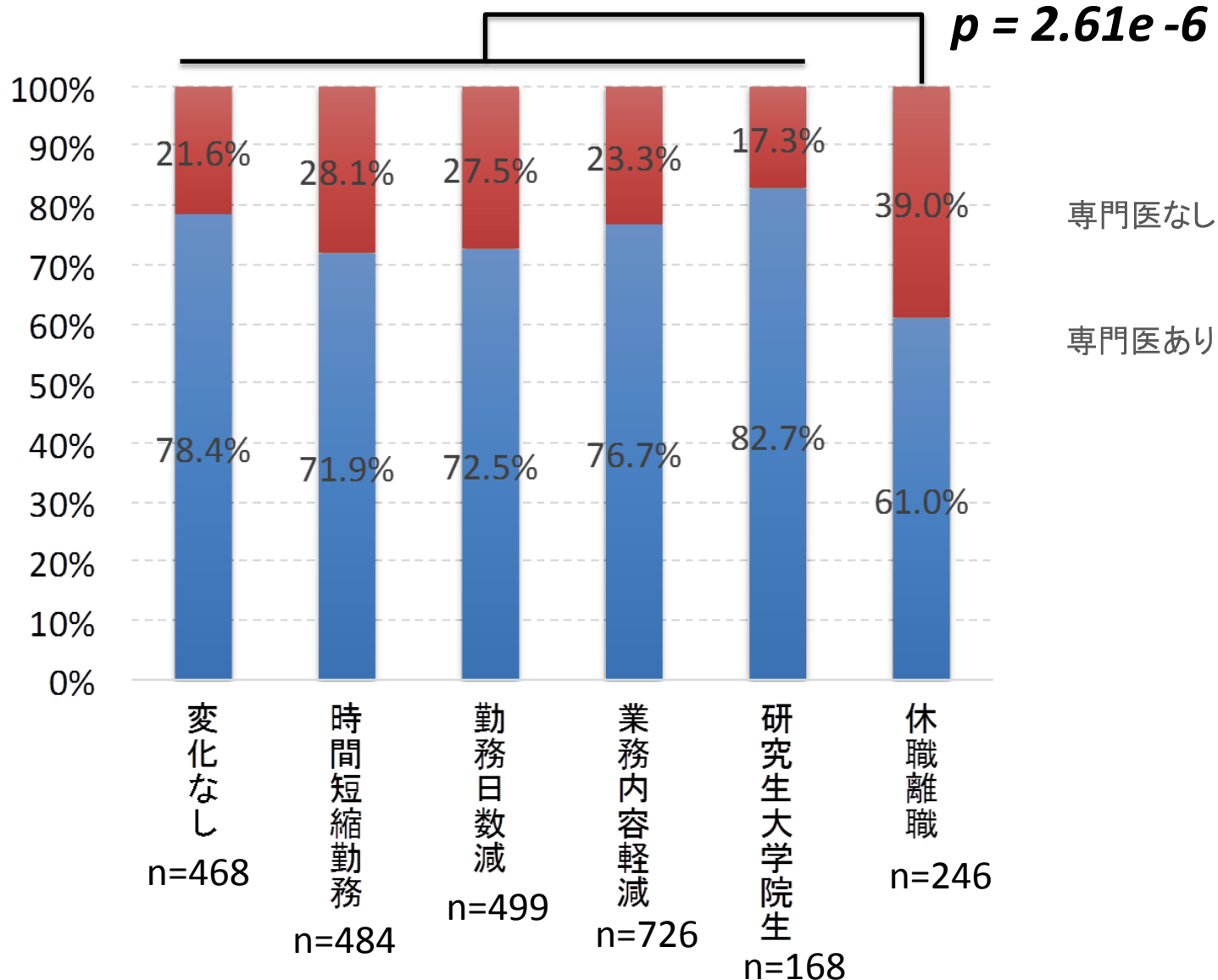


未就学児の育児中の働き方

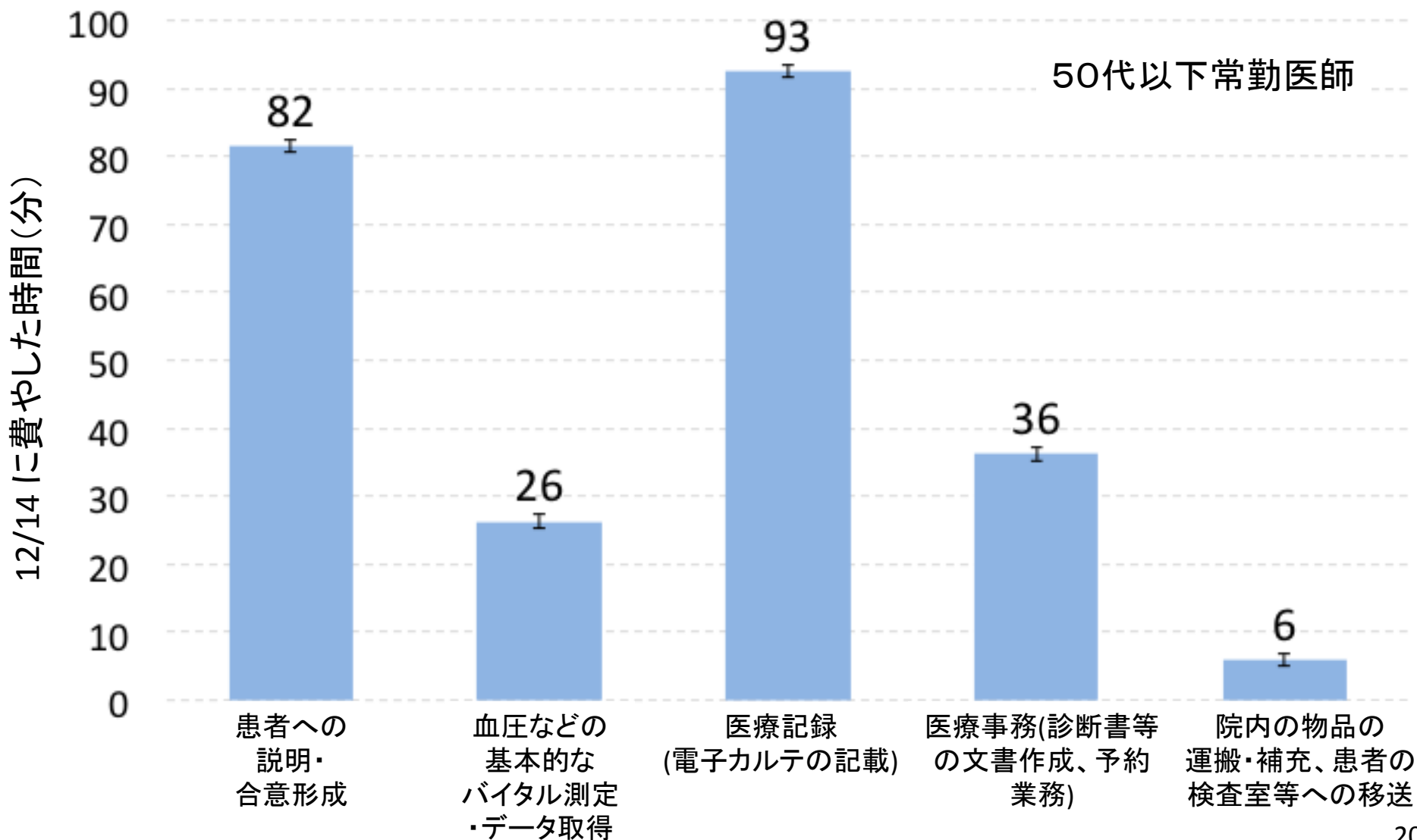


育児中の勤務形態と専門医取得(女性)

○ 育児中、休職・離職した女性医師は、他の勤務形態を取った女性医師と比較して、専門医資格の取得率が有意に低い。

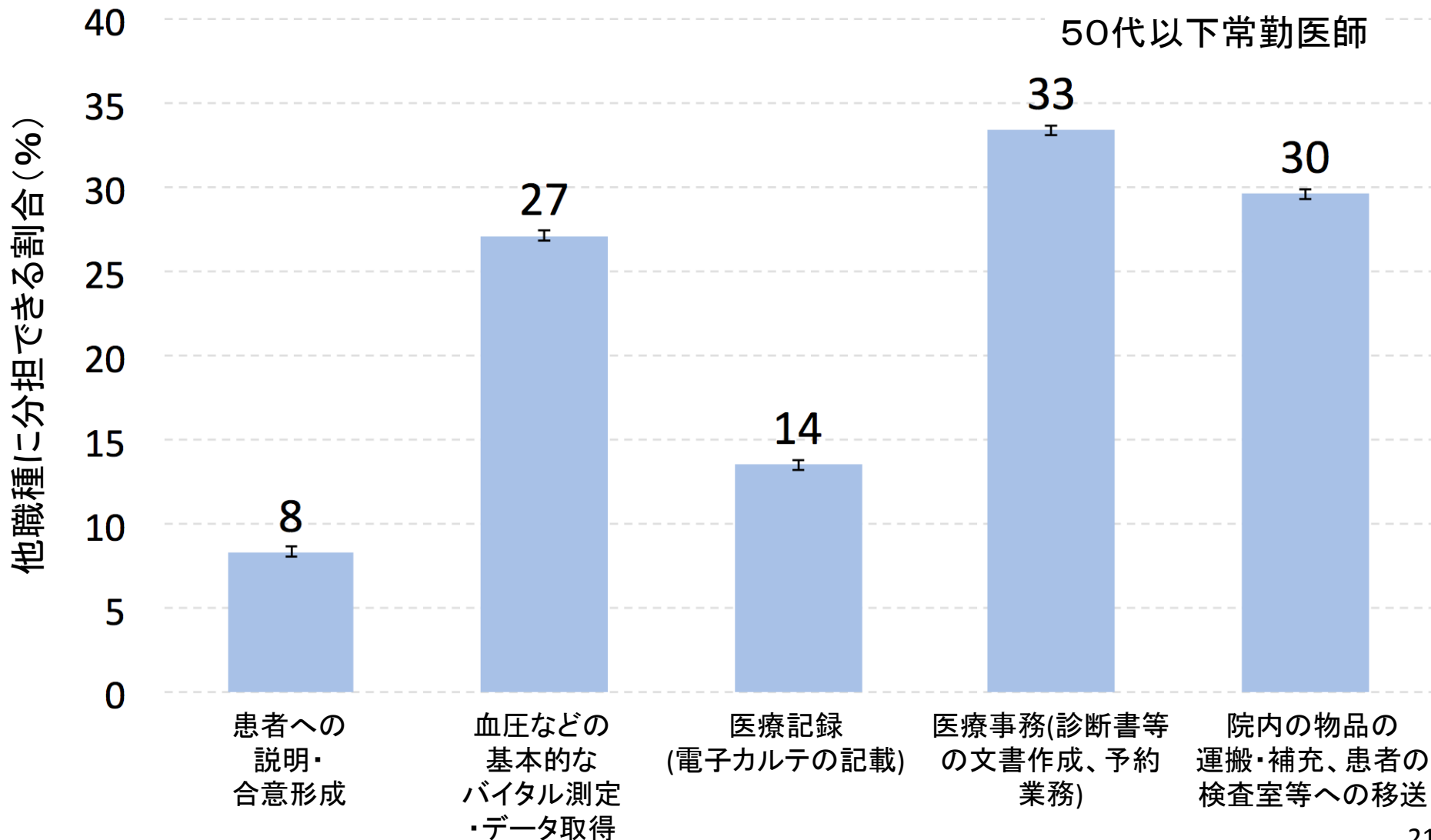


他職種(看護師や事務職員等のコメディカル職種)との分担 (12月14日の1日に費やした時間(分))



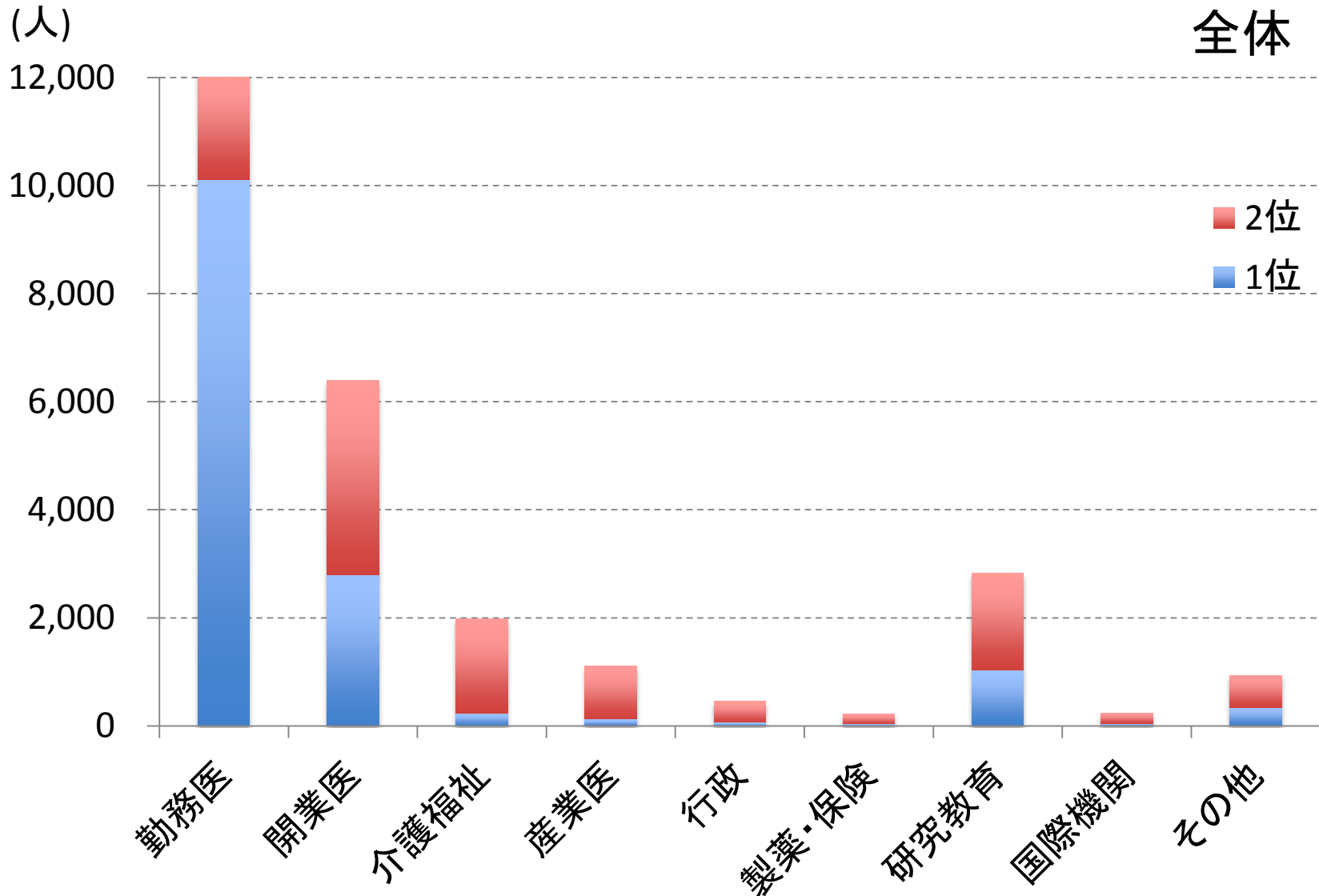
他職種(看護師や事務職員等のコメディカル職種)との分担 (他職種に分担できる割合(%))

○ 1日で5つの業務に費やした平均約 240 分のうち、20%弱(約47分)が他業種に分担可能。



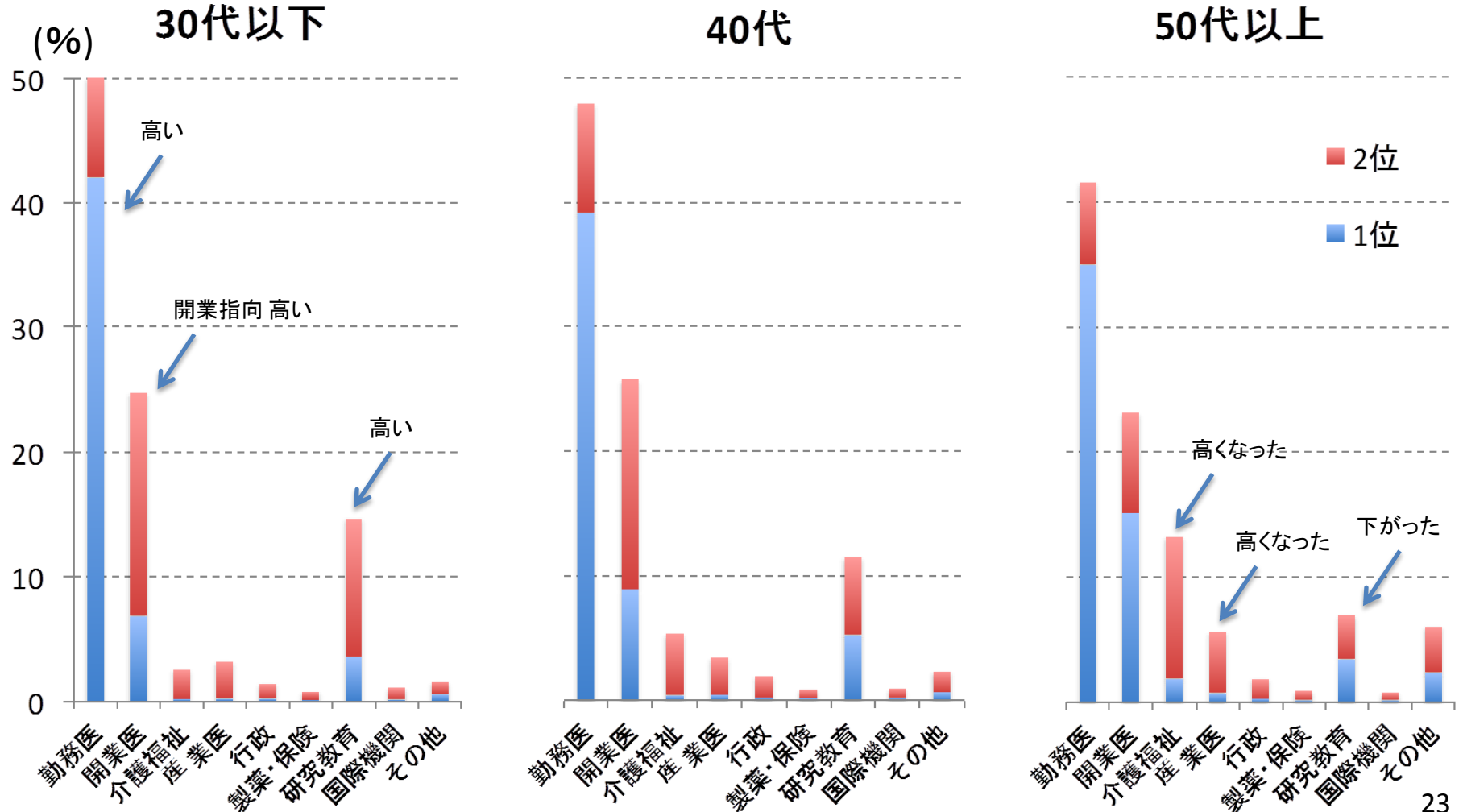
キャリア意識

○ 全年代のキャリア意識では、一番多いのは勤務医、二番目が開業医、三番目が研究教育。



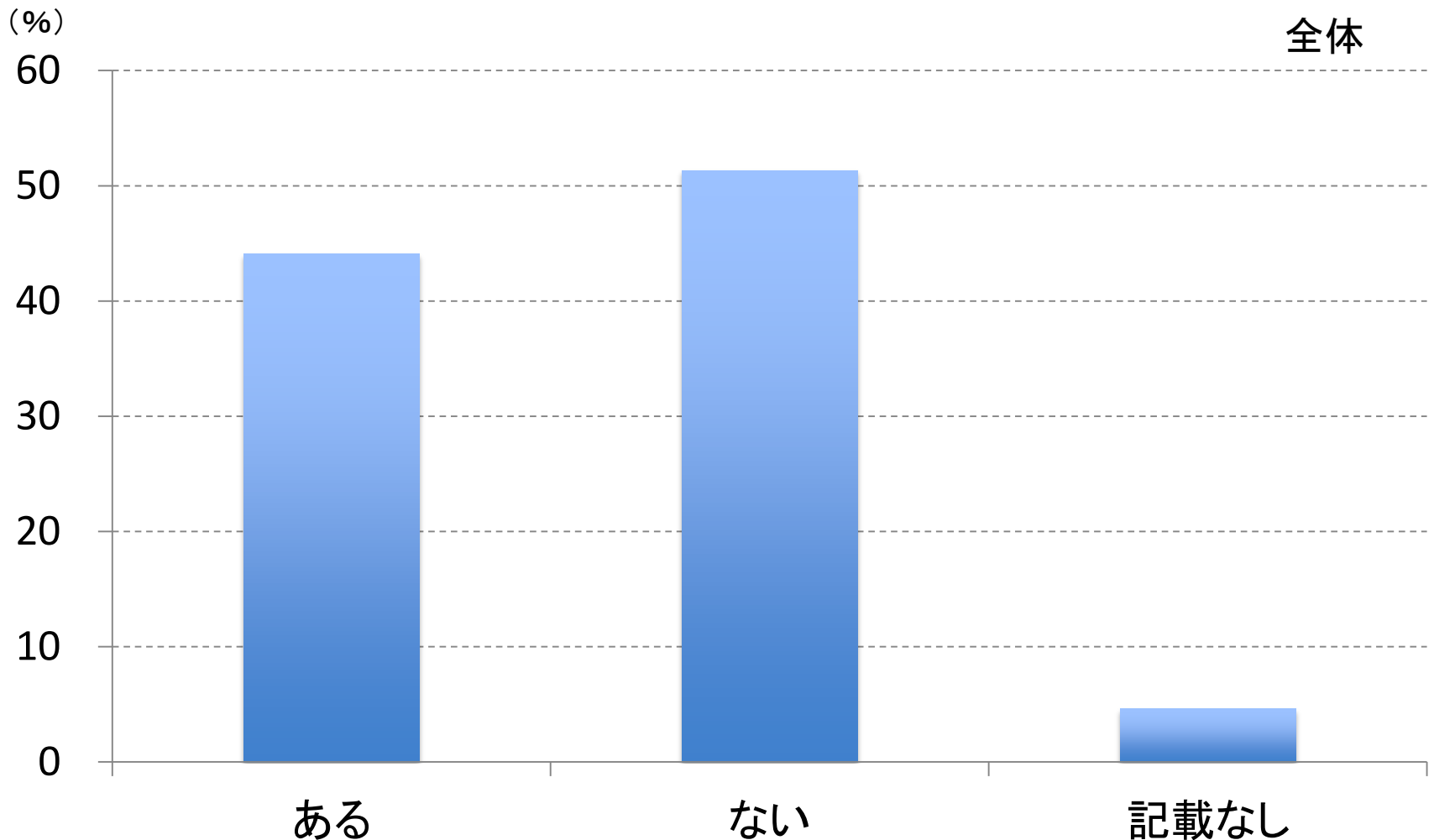
キャリア意識 世代別

○ 30代以下の医師は、キャリアとしてほとんどが勤務医、開業医、研究教育を希望するが、40・50代はそれらを希望する割合が下がる一方、介護・福祉分野、産業医の希望が増え、希望するキャリアが多様化する。



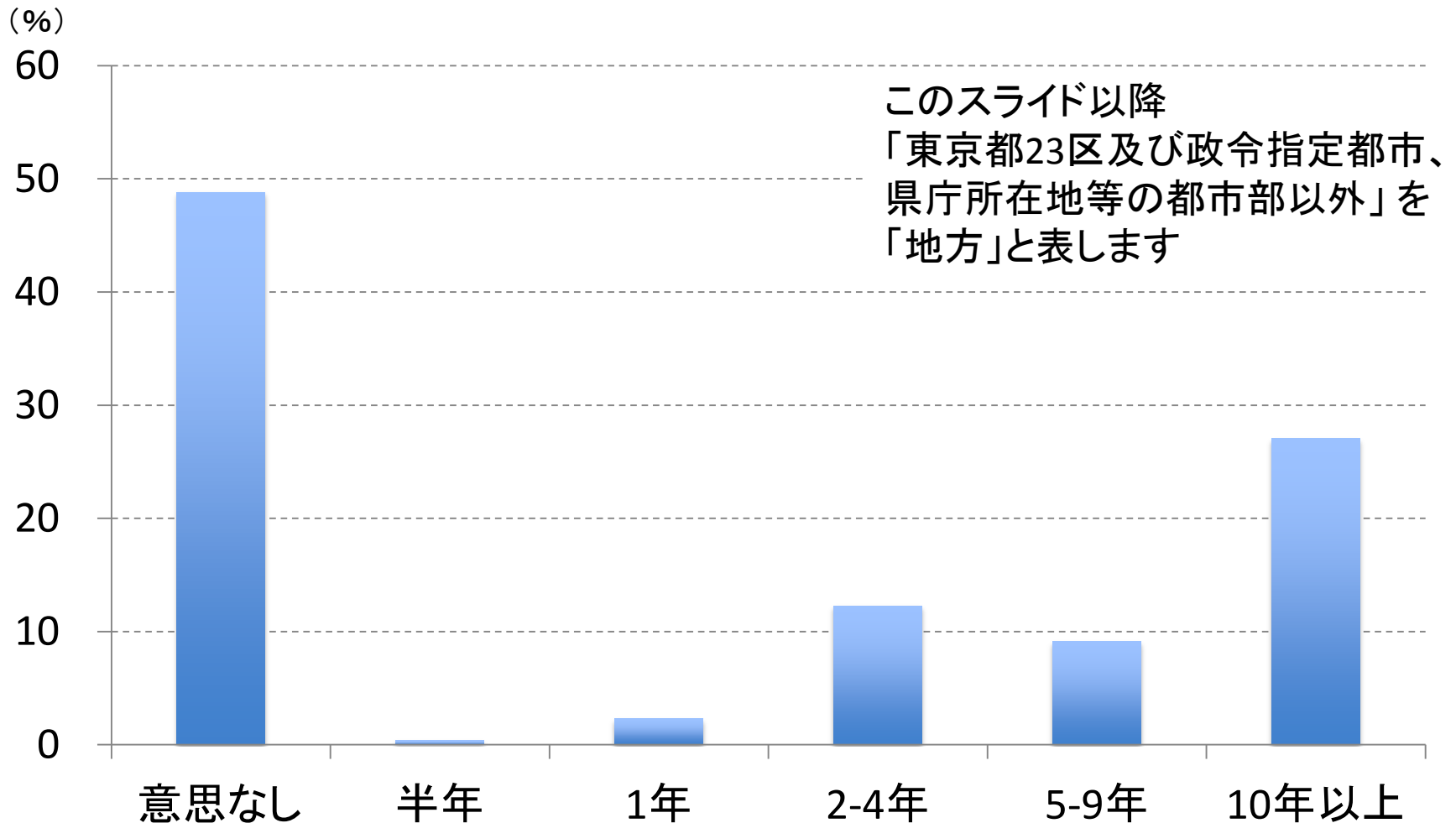
東京都23区及び政令指定都市、 県庁所在地等の都市部以外で勤務する意思

○ 医師の44%が、今後、地方(東京都23区及び政令指定都市、県庁所在地等の都市部以外)で勤務する意思がある。



地方で何年勤務する意思があるか (50代以下勤務医)

○ 50代以下の勤務医のうち約半数が、今後、地方で勤務する意思がある。その期間については、半年や1年を希望する割合は低く、10年以上を希望する割合は30%近い。



地方で何年勤務する意思があるか (勤務医のみ、年代別)

- 20代の勤務医のうち、60%が地方で勤務する意思があると回答。
- 地方で勤務する意思がある医師は、20代は2～4年を希望する割合が多く、30代以上は10年以上を希望する割合が高くなる。

意思ありと

回答した人数/

各年代全体の人数
(意思ありの割合)

645/1080
(60%)

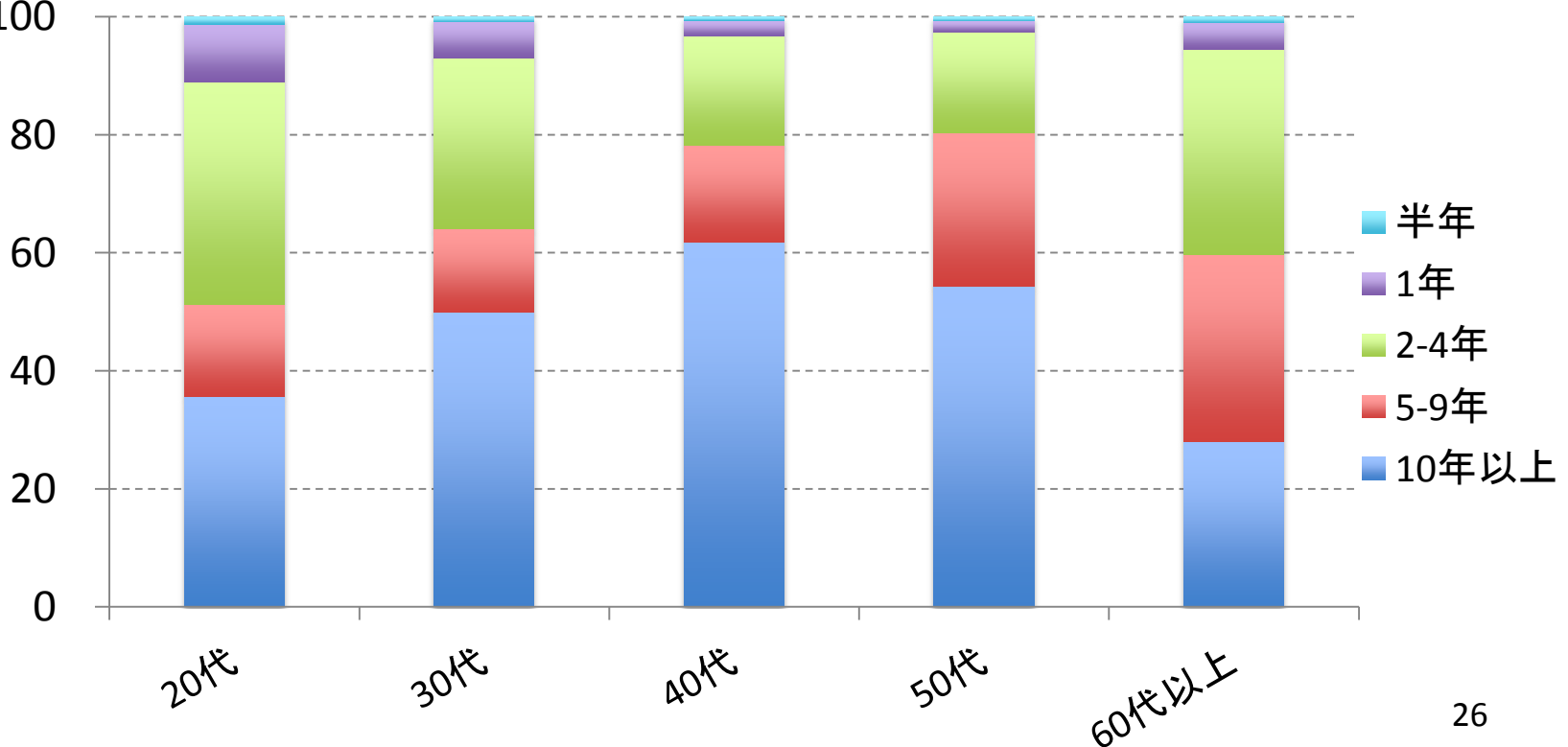
1867/3605
(52%)

1629/3382
(48%)

1308/2583
(51%)

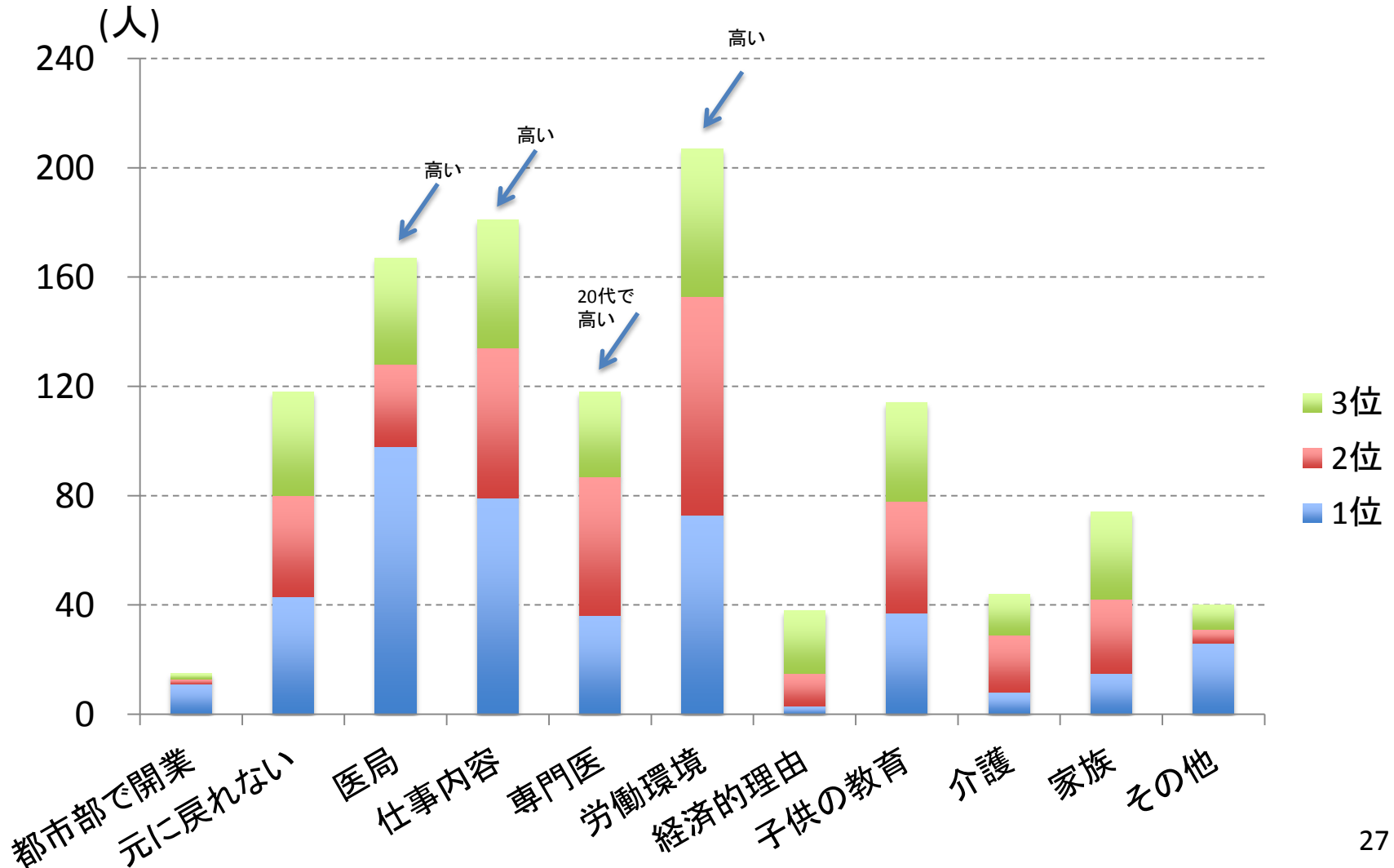
700/1717
(41%)

(%) 100



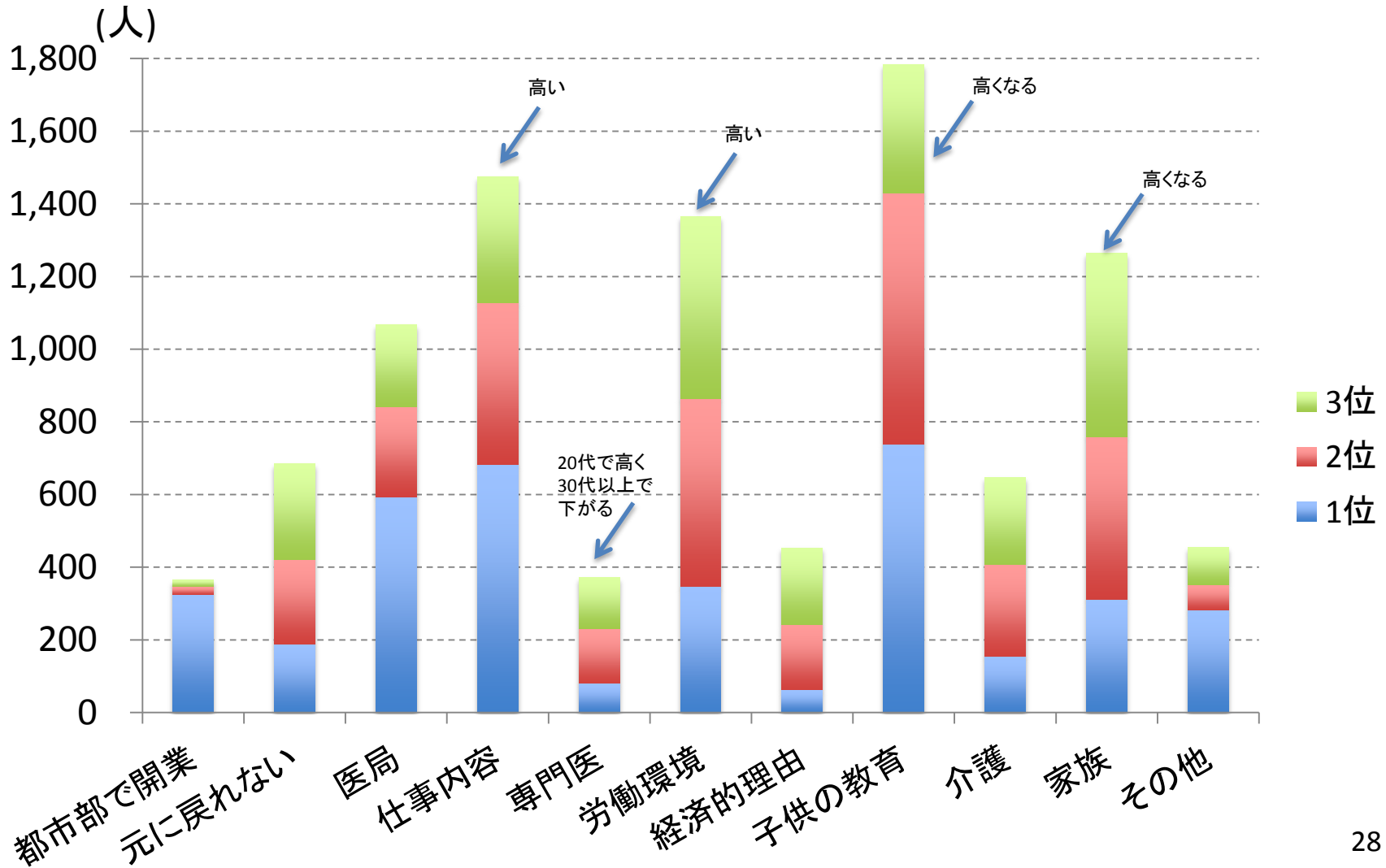
地方で勤務する意思がない理由(20代)

○ 20代医師で地方で勤務する意思がない理由の上位は、労働環境への不安、希望する内容の仕事ができないこと、医局の人事のため選択の余地がないこと。また、専門医の取得に不安があることもこの世代に特徴的な上位の理由。



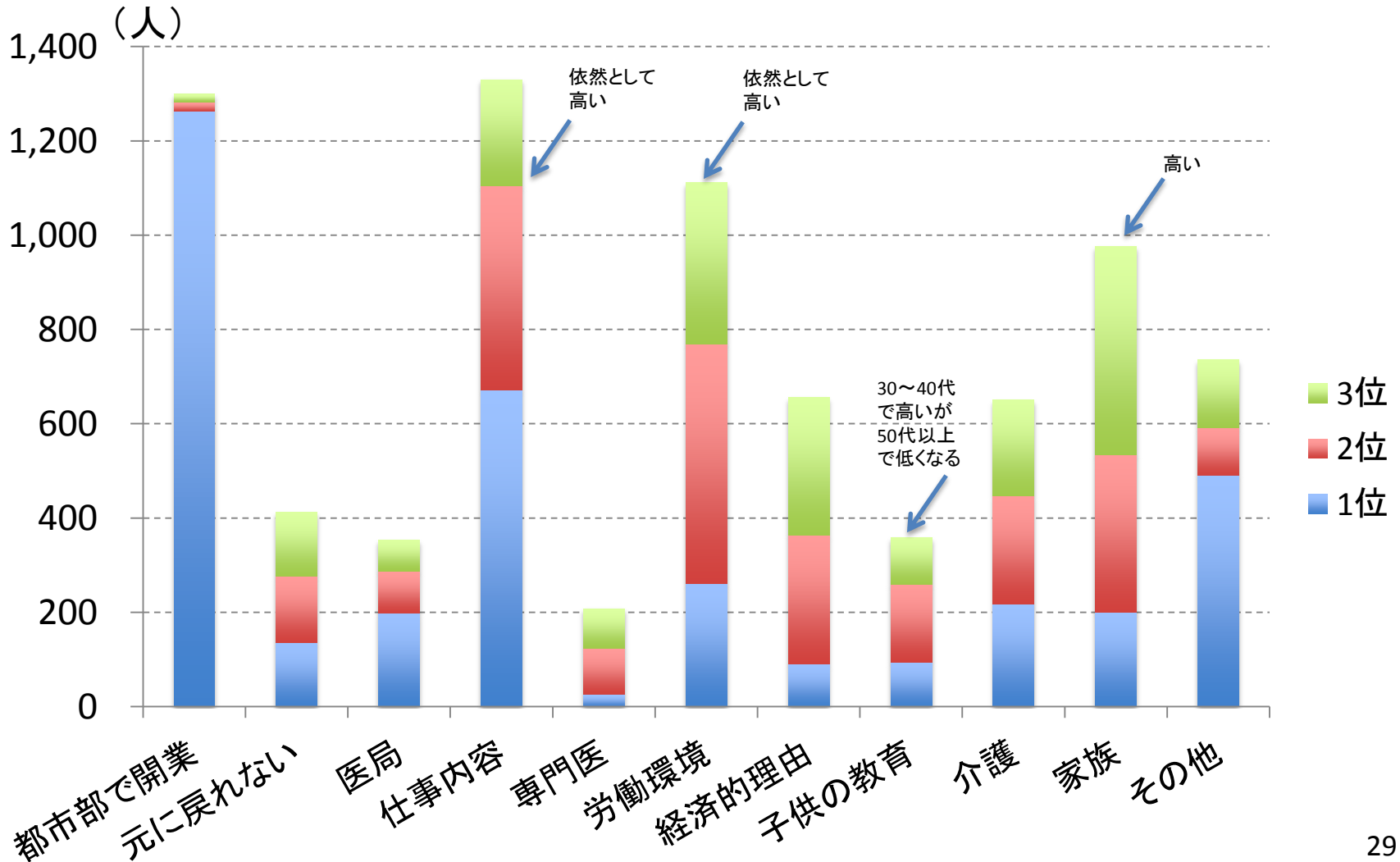
地方で勤務する意思がない理由(30・40代)

○ 30・40代医師で地方で勤務する意思がない理由の上位は、子供の教育環境が整っていないことや家族の理解が得られないこと。また、希望する内容の仕事ができないこと、労働環境への不安は依然として上位の理由だが、専門医の取得への不安は理由として少ない。



地方で勤務する意思がない理由（50代以上）

○ 50代以上の医師で地方で勤務する意思がない理由として、希望する内容の仕事ができないこと、労働環境への不安、家族の理解が得られないことは依然として上位。一方、子供の教育環境が整っていないことは理由として少ない。



「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」 研究班

○井元清哉	東京大学医科学研究所 ヘルスインテリジェンスセンター 健康医療データサイエンス分野 教授
大磯議一郎	浜松医科大学医療法学 教授
中村利仁	夕張市立診療所 医師
橋本英樹	東京大学大学院医学系研究科保健社会行動学分野 教授
長谷川嵩矩	東京大学医科学研究所 ヘルスインテリジェンスセンター健康医療データサイエンス分野 助教
古谷知之	慶應義塾大学総合政策学部 教授
森田知宏	相馬中央病院 医師
森田-竹内麻里子	南相馬市立総合病院 医師
山口 類	東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターDNA情報解析分野 准教授
湯地晃一郎	東京大学医科学研究所国際先端医療社会連携研究部門 特任准教授

五十音順 ○ 研究代表者

参考資料(調査票)

↓施設の事務のご担当者が施設の郵便番号を記入してください。

〒 -

医師の勤務実態及び働き方の意向等 に関する調査

医師調査票

**厚生労働科学特別研究
厚生労働省医政局**

2016年12月

＜ご回答される医師の皆さま＞

○ 我が国の医療を取り巻く環境は、国民の医療や介護に対する期待、患者像の変化、介護と看取りの連携の進化、情報通信技術の発展等により大きく急激に変化しています。厚生労働省においては、新しい時代にふさわしい医療供給体制の構築を目指し、新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョンを策定しております。このビジョンの検討においては、現在の医師の勤務実態・キャリア意識を正しく把握することが必要不可欠です。そこで本調査を行うこととなりました。本調査の分析結果は、新たな医療における医療従事者の働き方の基本哲学に繋がります。未来の医療をより良いものにするため、ご協力くださいますようお願い致します。

○ 本調査のデータは、個人が識別される形で集計を行うことはありません。また、皆さまが勤務されている医療機関に、個人が特定される形で調査票・データを提供することはありません。

○ 常勤、非常勤の方も、全員ご記入いただきますようお願い致します。

○ 複数の医療施設で勤務されている場合でも、本調査票は一部のみ提出するようお願い致します。

○ ご回答は、当てはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。

○ ご記入は鉛筆または黒・青のボールペンでお願いします。

○ 本調査票は、添付の返信用封筒に入れて **12月21日(水)までに** 投函してください。

研究班 URL : <http://ws-reforms.umin.jp/>



お問い合わせ先 : 0120-167-727

平日 9:00~18:00、平成 29 年 1 月 31 日 (火) まで

但し、年末年始の 12/29~1/3 は除く

問1 ご本人の情報についてお答えください。(平成 28 年 12 月 1 日現在)

① 年齢	<input type="text"/> 歳			
② 性別	01 男性	02 女性		
③ 出身医学部(学部)所在地	<input type="text"/>	都・道・府・県		
④ 医学部(学部)卒業年度	西暦 <input type="text"/>	年度		
⑤ 居住地	<input type="text"/>	都・道・府・県	<input type="text"/>	市・区・町・村
⑥ 出身地 ※	<input type="text"/>	都・道・府・県 ※高校等を卒業する前までに過ごした期間が最も長い場所		
⑦ 勤務形態	01 勤務医(常勤)	02 勤務医(非常勤)	03 病院・診療所の管理者	
⑧ 年収	01 500万円未満	02 500~1,000万円未満	03 1,000~1,500万円未満	
	04 1,500~2,000万円未満	05 2,000万円以上		
⑨ 同居家族	01 配偶者又はパートナー ⇒(同居・別居) 02 親(義理を含む) ⇒(1人・2人・3人以上)			
※ 当てはまるものすべてに○をつけてください。	03 0歳児 ⇒(1人・2人・3人以上) 04 未就学児(1歳以上) ⇒(1人・2人・3人以上)			
	05 小学生 ⇒(1人・2人・3人以上) 06 中学生以上 ⇒(1人・2人・3人以上)			
※ ⑩・⑪は、⑨で「01 配偶者又はパートナー」と同居していると回答された方のみお答えください。				
⑩ 配偶者又はパートナーの職業	01 医師	02 医療職(医師以外)	03 医療職以外	
⑪ 配偶者又はパートナーの勤務形態	01 常勤	02 非常勤	03 自営	04 無職
⑫ 主たる診療科	01 内科系(<input type="text"/> 科) 02 外科系(<input type="text"/> 科)			
※ 一つのみ回答。	03 産婦人科(分娩取扱い 有・無) 04 小児科 05 救急科 06 麻酔科			
	07 精神科 08 放射線科 09 臨床研修医 10 その他(<input type="text"/> 科)			
⑬ 専門医資格の有無	01 専門医を取得している(取得専門医数 <input type="text"/> 種類) 02 専門医を取得していない			

問2 主たる勤務先の診療形態についてお答えください。(平成 28 年 12 月 1 日現在)

① 日勤の勤務体制	01 主治医制	02 複数主治医制	03 その他
	※ 「主治医制」は主治医が1人で患者を担当する場合を、「複数主治医制」は複数の医師がチームで患者を担当する場合を指します。救急・外来等の診療や研究、管理業務等に従事していて、これらに当てはまらない場合は「その他」を選んでください。		
② 夜間・休日の勤務体制	01 オンコール制 02 交代勤務制		

問3 主たる勤務先及び(もしあれば)その他の勤務先における先月(11月)の勤務状況についてお答えください。

① 先月勤務した医療機関数	01 1カ所	02 2カ所	03 3カ所	04 4カ所以上
② それぞれの勤務先の先月の勤務日数、当直(日直・宿直)・オンコール回数		勤務日数		
		当直(日直・宿直)・オンコール		
		日直	宿直	オンコール
	主たる勤務先	日	回	回
	その他の勤務先	日	回	回
※ 勤務日数は、1時間でも働けば1日と換算してください。 ※ 当直は、通常の勤務時間とは別に、 院内に待機して 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務であり、そのうち、日直は昼間の時間帯、宿直は夜間の時間帯に行うものをお答えください。 ※ オンコールは、通常の勤務時間とは別に、 院外に待機して 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務をお答え下さい。 ただし、実際に患者に対して診療等の対応を行ったかどうかは問いません。				
③ 昨年取得した年次有給休暇	01 0日	02 1~5日	03 6~10日	04 11日以上

問4 12月8日(木)～14日(水)の労働時間について、注意事項・用語の定義・記入例を参考に、次頁の表に記入してください。

注意事項

- ・主たる勤務先だけでなく、その他の勤務先の労働時間についても併せて記入してください。
- ・「勤務日」「休日」のうち、該当するもの一つに○を付けてください。
- ・「始業」には勤務先に出動した時間を、「終業」には勤務先から退勤した時間を記入してください。
- ・労働時間は30分単位で記入してください。30分に満たない場合は、その30分で最も多くの時間を費やした領域を選んで記入してください。
- ・「診療」には、外来診療、入院診療、在宅診療に従事した時間を矢印で記入してください。
- ・「診療外」には、教育、研究・自己研修、会議・管理業務等に従事した時間を矢印で記入してください。
- ・「当直」「オンコール」には、該当するものに○を付けて待機時間を矢印で記入し、そのうち実際に患者に対して診療等の対応を行った時間を「診療」に矢印で記入してください。
- ・休憩の時間は、空欄にして矢印を記入しないでください。

《用語の定義》

- 休日** 一日を通して通常の勤務が課せられていない日。
休憩 業務を行わず、食事や休養等に費やした時間で、診療・診療外のいずれにも含まない。

○ **診療**

外来・入院・在宅診療 外来・入院・在宅患者それぞれの診察・治療・説明等に費やした時間。直接患者に接していないくても、患者の診療のための移動時間、患者のために行った事務作業やカンファレンスの時間、患者の診療のための調査や学習の時間は「外来診療」「入院診療」「在宅診療」の時間と考えるください。

○ **診療外**

教育 研修医等の他の医師、看護師や事務職員等のコメディカル職種への教育やその準備に費やした時間。
研究・自己研修 実験や調査、論文執筆等に費やした時間や、学習（例：医学雑誌や医学書に目を通す）や研修（例：講習会・講演会・説明会等への参加）のために費やした時間。また、研究に伴う事務作業やカンファレンスの時間も「研究・自己研修」の時間と考えてください。

会議・管理業務等 会議・管理業務（外来・入院・在宅患者の診療に直接関係のない会議や委員会への参加、経営・人事等に関する業務）や学校医・産業医等の地域医療活動、講演などに費やした時間。

○ **当直・オンコール**

当直 通常の勤務時間とは別に、院内に待機して 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務。
オンコール 通常の勤務時間とは別に、院外に待機して 応急患者に対して診療等の対応を行う勤務。

《記入例》

- 調査日が「勤務日」で「オンコール」がある場合。
 - ・診療時間：7:30-10:30、14:30-16:30、18:30-19:30、22:00-24:00、翌日 3:30-5:00
 - ・診療外時間：10:30-12:30、13:30-14:30、16:30-18:30
 - ・オンコール時間：19:30-翌日 6:00

勤務日・休日	診療	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
始業 7時30分	診療外													
終業 19時30分	当直・オンコール													

休憩(12:30-13:30)は矢印を記入しない

- 調査日が「休日」で「オンコール」がなく、「診療」「診療外」の業務も行わなかった場合は、矢印の記入は不要となります。

12月 8日(木)

いずれかに○		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

該当する場合は、いずれかに○

12月 9日(金)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月10日(土)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月11日(日)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月12日(月)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月13日(火)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

12月14日(水)

		6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	0:00	2:00	4:00	6:00
勤務日・休日	診療													
始業 時 分	診療外													
終業 時 分	当直・オンコール													

※12/14(水)については、問5(4頁)に関連した設問がありますので、予めご確認ください。

問5 12月14日(水)が勤務日だった方に伺います。

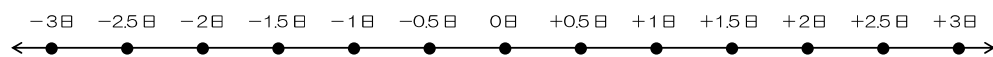
次の各業務のうち、(1)12月14日(水)の1日に各業務に費やした時間と、(2)現在自分で行っている業務量を100%としたときに他職種(看護師や事務職員等のコメディカル職種)に分担可能と考える割合についてお答えください。

	(1) 12/14に費やした時間	(2) 他職種に分担できる割合
① 患者への説明・合意形成	分	%
② 血圧などの基本的なバイタル測定・データ取得	分	%
③ 医療記録(電子カルテの記載)	分	%
④ 医療事務(診断書等の文書作成、予約業務)	分	%
⑤ 院内の物品の運搬・補充、患者の検査室等への移送	分	%

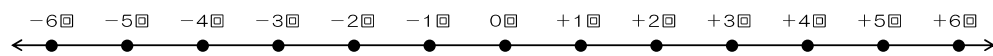
問6 現在の働き方を基準として、今後、どのような働き方を希望しますか？(1)1週間当たりの日勤の勤務日数の増減、(2)1カ月当たりの当直・オンコールの増減でお答えください。

※現在の勤務日数や当直・オンコール回数を希望される場合は、「0日」「0回」に丸を付けてください。

(1)1週間当たりの日勤の勤務日数の増減(当てはまる日数に丸を付けてください)



(2)1カ月当たりの当直・オンコールの増減(当てはまる回数に丸を付けてください)



問7 今後、問6の実現に必要なと思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- | | |
|--|-------------------------|
| 01 院内保育施設の設置・充実 | 02 ベビーシッター費用の所得控除 |
| 03 育児/介護休業給付金の増額 | 04 給与の増加 |
| 05 育児/介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み | 07 当直明けの休みの確保 |
| 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保 | 08 有給休暇の取得促進 |
| 09 他職種との分担による業務負担軽減 | 11 短時間勤務の推進 |
| 10 時間外業務の縮減 | 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み |
| 13 働きやすい診療科を自由に選択できる(転科を含む)仕組み | |

第1位

第2位

第3位

「問8・問9は、配偶者又はパートナーが、医師で、且つ、現在無職の方に伺います。」

問8 配偶者又はパートナーの年齢についてお答えください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 01 20代以下 | 02 30代前半 | 03 30代後半 | 04 40代前半 |
| 05 40代後半 | 06 50代前半 | 07 50代後半 | 08 60代以上 |

問9 配偶者又はパートナーが、今後、復職を希望した場合、復職するために必要と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- | | |
|--|-------------------------|
| 01 院内保育施設の設置・充実 | 02 ベビーシッター費用の所得控除 |
| 03 育児/介護休業給付金の増額 | 04 給与の増加 |
| 05 育児/介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み | 07 当直明けの休みの確保 |
| 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保 | 08 有給休暇の取得促進 |
| 09 他職種との分担による業務負担軽減 | 11 短時間勤務の推進 |
| 10 時間外業務の縮減 | 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み |
| 13 働きやすい診療科を自由に選択できる(転科を含む)仕組み | |

第1位

第2位

第3位

問10 現在、大学の医局に所属していますか？所属していない場合、今後、所属する予定はありますか？

- | |
|-------------------------|
| 01 所属している |
| 02 所属していないが、今後所属する予定である |
| 03 所属しておらず、今後所属する予定もない |

問11 今後のキャリアとして、次のうちどれを希望しますか？次の【選択肢】より第1希望、第2希望をお答えください。

選択肢

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 01 臨床(勤務医) | 02 臨床(開業医) |
| 03 介護・福祉分野(老健施設長など) | 04 産業衛生職(産業医など) |
| 05 行政職(地方・中央機関を含む) | 06 製薬・保険など民間企業(産業医を含まない) |
| 07 研究教育(大学や研究機関) | 08 国際機関(WHO等) |
| 09 その他() | |

第1希望

第2希望

問12 今後、東京都23区及び政令指定都市、県庁所在地等の都市部以外で勤務する意志がありますか？(現在、当該地域に勤務されている方は「01ある」を選択して下さい)

- | | |
|--------------|--------------|
| 01 ある(⇒問13へ) | 02 ない(⇒問14へ) |
|--------------|--------------|

問13 <問12で「01ある」と回答された方のみ>
具体的には何年程度勤務する意志がありますか？

- | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|----------|
| 01 半年 | 02 1年 | 03 2~4年 | 04 5~9年 | 05 10年以上 |
|-------|-------|---------|---------|----------|

問14 <問12で「02ない」と回答された方のみ>
勤務する意志がない理由を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 01 既に都市部で開業しているため | 02 元の勤務地/希望する勤務地に行ける保証がないため |
| 03 医局の人事等のためキャリア選択や居住地選択の余地がないため | 05 専門医等の資格取得が困難であるため |
| 04 希望する内容の仕事ができないため | 07 経済的理由(収入・待遇)のため |
| 06 労働環境に不安があるため | 08 子供の教育環境が整っていないため |
| 09 両親等親族の介護のため | 11 その他() |
| 10 家族の理解が得られないため | |

第1位

第2位

第3位

問 15① これまで出産又は育児の経験はありますか？

01 経験がある (⇒問 15②△) 02 経験はない (⇒問 17△)

→ 問 15② <問 15①で「01 経験がある」と回答された方のみ>

産前休業又は育児休業を取得しないことがありましたか？

01 取得した (⇒問 17△) 02 取得しないことがあった (⇒問 15③△)

→ 問 15③ <問 15②で「02 取得しないことがあった」と回答された方のみ>

その際、勤務を継続しましたか？

01 勤務を継続した (⇒問 17△) 02 離職した (⇒問 16△) 03 配偶者が離職した (⇒問 17△)

→ 問 16 <問 15③で「02 離職した」と回答された方のみ>

どのような取組があれば、離職せずに勤務を継続できたと思いますか？最も有効と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- 01 院内保育施設の設置・充実
- 02 ベビーシッター費用の所得控除
- 03 育児／介護休業給付金の増額
- 04 給与の増加
- 05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み
- 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保
- 07 当直明けの休みの確保
- 08 有給休暇の取得促進
- 09 他職種との分担による業務負担軽減
- 10 時間外業務の縮減
- 11 短時間勤務の推進
- 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み
- 13 働きやすい診療科を自由に選択できる（転科を含む）仕組み

第1位 第2位 第3位

※そもそも勤務の継続を希望していなかった場合は、こちらをチェックしてください ⇒

問 17 育児の経験はありますか？ある場合は、直近の育児を中心的に行った方をお答えください。

01 自分 02 配偶者又はパートナー 03 配偶者以外の親族 04 ベビーシッター
05 育児の経験はない (⇒問 21△)

<問 18・問 19は、問 17で「01」～「04」のいずれかを回答された育児の経験のある方のみ>

問 18 未就学児の育児中（育児休業中を除く）の働き方はどうされていましたか（どうされていますか）？ 当てはまるものを全てお答えください。

- 01 子育て前と変化なし
- 02 時間短縮勤務（1日_____時間程度勤務）
- 03 勤務日数減（週_____日勤務）
- 04 業務内容軽減（例：当直免除）
- 05 研究生・大学院生
- 06 休職・離職
- 07 その他（具体的に_____）

問 19 問 18 の実際の働き方を踏まえて、未就学児の育児中（育児休業中を除く）にあなたが希望した（する）働き方はどのようなものでしたか（ですか）？ 当てはまるものを全てお答えください。

- 01 子育て前と変化なし
- 02 時間短縮勤務（1日_____時間程度勤務）
- 03 勤務日数減（週_____日勤務）
- 04 業務内容軽減（例：当直免除）
- 05 研究生・大学院生
- 06 休職・離職
- 07 その他（具体的に_____）

問 20 <問 18で「06 休職・離職」と回答された方のうち、勤務の継続を希望されていた方に伺います。> どのような取組があれば、離職せずに勤務を継続できたと思いますか？最も有効と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- 01 院内保育施設の設置・充実
- 02 ベビーシッター費用の所得控除
- 03 育児／介護休業給付金の増額
- 04 給与の増加
- 05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み
- 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保
- 07 当直明けの休みの確保
- 08 有給休暇の取得促進
- 09 他職種との分担による業務負担軽減
- 10 時間外業務の縮減
- 11 短時間勤務の推進
- 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み
- 13 働きやすい診療科を自由に選択できる（転科を含む）仕組み

第1位 第2位 第3位

※そもそも勤務の継続を希望していなかった場合は、こちらをチェックしてください ⇒

問 21 介護の経験はありますか？ある場合は、直近の介護を中心的に行った方をお答えください。

01 自分 02 配偶者又はパートナー 03 配偶者以外の親族 04 老人ホーム・介護施設
05 介護の経験はない

<問 22・問 23は、問 21で「01」～「04」のいずれかを回答された介護の経験のある方のみ>

問 22 介護休業を取得しましたか？

01 取得した 02 取得せず勤務を継続した 03 取得せず離職した

→ 問 23 <問 22で「03 取得せず離職した」と回答された方のみ>

どのような取組があれば、離職せずに勤務を継続できたと思いますか？最も有効と思われる取組を、次の【選択肢】より1位から3位までお答えください。

選択肢

- 01 院内保育施設の設置・充実
- 02 ベビーシッター費用の所得控除
- 03 育児／介護休業給付金の増額
- 04 給与の増加
- 05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が医師としてのキャリアを遅らせない仕組み
- 06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保
- 07 当直明けの休みの確保
- 08 有給休暇の取得促進
- 09 他職種との分担による業務負担軽減
- 10 時間外業務の縮減
- 11 短時間勤務の推進
- 12 働きやすい勤務先を自由に選択できる仕組み
- 13 働きやすい診療科を自由に選択できる（転科を含む）仕組み

第1位 第2位 第3位

※そもそも勤務の継続を希望していなかった場合は、こちらをチェックしてください ⇒

◎ 最後に、どのようなことでも結構ですので、ご意見・ご提案があれば、ご記入ください。

[]

※この欄の記載について報告書等への収録を（ 許可する ・ 許可しない ）

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
添付の返信用封筒に入れて、12月21日（水）までに直接投函してください。

医師の勤務実態及び働き方の意向等 に関する調査

医療施設調査票

厚生労働科学特別研究
厚生労働省医政局

2016年12月

<ご回答される医療施設のご担当者さま>

- 我が国の医療を取り巻く環境は、国民の医療や介護に対する期待、患者像の変化、介護と看取りの連携の進化、情報通信技術の発展等により大きく急激に変化しています。厚生労働省においては、新しい時代にふさわしい医療供給体制の構築を目指し、新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョンを策定しております。このビジョンの検討においては、現在の医師の勤務実態・キャリア意識を支える医療機関の状況を正しく把握することが必要不可欠です。そこで本調査を行うこととなりました。本調査の分析結果は、新たな医療における医療従事者の働き方の基本哲学に繋がります。未来の医療をより良いものにするため、ご協力くださいますようお願い致します。
- 本調査のデータは、医療施設が識別される形で集計を行うことはありません。
- 本調査票は、貴施設の責任者の方がご回答ください。
- ご回答は、当てはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。
- ご記入は鉛筆または黒・青のボールペンでお願いします。
- 本調査票は、同封の返信用封筒に入れて12月21日(水)までに投函してください。

研究班 URL : <http://ws-reforms.umin.jp/>



お問い合わせ先: 0120-167-727

平日9:00~18:00、平成29年1月31日(火)まで
但し、年末年始の12/29~1/3は除く

問1 貴施設の情報についてお答えください。(平成28年12月1日現在)

① 貴施設の郵便番号	〒 [] - []	
② 貴施設の開設主体 (※) O1又はO2の場合、[]内に○をつけてください。	O1 国 ⇒ [ア 国立大学法人 イ 国立大学法人以外の法人] (※) O2 公的医療機関 ⇒ [ア 都道府県 イ 市町村 ウ 公立大学法人 エ 日赤・済生会 オ 厚生連 カ ア~オ以外の法人] (※) O3 社会保険関係団体 O4 公益法人 O5 医療法人 O6 学校法人 O7 社会福祉法人 O8 医療系協 O9 株式会社 O10 その他の法人 O11 個人	
③ 貴施設の種別	O1 病院	O2 有床診療所 O3 無床診療所
④ 貴施設の指定等 (※) 該当するものすべてに○をつけてください。	O1 臨床研修病院(基幹型) O3 専門医の研修施設 O5 2次救急医療施設 O7 総合又は地域周産期母子医療センター	O2 臨床研修病院(協力型等) O4 救急指定病院 O6 救命救急センター(3次救急医療施設) O8 在宅療養支援病院・診療所
⑤ 貴施設の在院患者数 (※) 12月14日(水)24時時点の病床種別在院患者数をお答えください。	在院患者数 (うち) 高度急性期 (うち) 急性期 (うち) 回復期 (うち) 慢性期	人 人 人 人 人 } (※) 貴施設で報告している病床機能報告における病床機能区分に合わせて在院患者数をご記入ください。
⑥ 貴施設の外来・救急患者数 (※) 12月14日(水)0時~24時の患者数をお答えください。	外来患者数 (うち) 時間外 (うち) 救急搬入	人 人 人

問2 貴施設に従事する医師及びコメディカル職種についてお答えください。(平成28年12月1日現在)

① 貴施設の医師数 (常勤・非常勤・臨床研修医・後期研修医)		常勤 (実人員)	非常勤 (実人員)	非常勤 (常勤換算)	臨床研修医 (実人員)	後期研修医 (実人員)
	男性医師	人	人	人	人	人
	女性医師	人	人	人	人	人
(※) 雇用形態に関わらず、貴施設が定める1週間の勤務時間(所定労働時間)の全てを勤務している場合は「常勤」、勤務していない場合は「非常勤」としてお答えください。 (※) 非常勤医師の常勤換算の算出については、非常勤医師の1週間の勤務延べ時間数(残業は除く)を、貴施設において常勤の医師が勤務すべき1週間の時間数(所定労働時間)で割り、小数点以下第2位を四捨五入してください。						
② 臨時に勤務する医師数	[] 人(実人員) (※) 12月8日(木)~14日(水)の間に、貴施設に臨時に勤務した医師数(実人員)をお答えください。 (※) 臨時に勤務とは、外来・当直のアルバイト医師や手術等への臨時の応援医師など、常勤以外の働き方で定期的にはその施設で勤務していない場合をお答えください。					
③ 非常勤の医師、臨時に勤務する医師の主たる勤務先 (※) それぞれ最もあてはまるものを1つだけ選択。	非常勤の医師	O1 大学病院等 O4 当院が主たる勤務先(短時間勤務等)	O2 大学病院以外の病院 O5 その他	O3 診療所等		
	臨時に勤務する医師	O1 大学病院等 O4 当院が主たる勤務先(短時間勤務等)	O2 大学病院以外の病院 O5 その他	O3 診療所等		
④ 退職した医師数 (※) 平成27年4月~平成28年3月の1年間に貴施設を退職した医師数をお答えください。			男性医師	女性医師		
	退職者数	人	人	人		
	(うち) 定年退職者数	人	人	人		
	(うち) 転職者数	人	人	人		
	(うち) 離職者数	人	人	人		
(※) 定年退職者数は貴施設で定める年齢に達して退職した医師数、転職者数は貴施設を退職した後に他の施設に就職した医師数、離職者数は貴施設を退職した後に他の施設に就職しない医師で自づ定年退職者でない医師数。						
⑤ 医師以外のコメディカル職種の常勤換算従事者数	看護師	人	准看護師	人	看護補助者	人
	助産師	人	薬剤師	人	理学療法士	人
	作業療法士	人	言語聴覚士	人	臨床工学技士	人
	診療情報管理士	人	医師事務補助者	人	その他の事務職員等	人
		人		人		人

問3 貴施設において現在実施されている、医師が仕事と家庭生活とを両立しながら働き続けるための取組について全てお答えください。

01 院内保育施設の設置・充実	02 ベビーシッター費用の所得控除
03 育児／介護休業給付金の増額	04 給与の増加
05 育児・介護休業の取得や短時間勤務等が昇給・昇進に影響しない仕組み	07 当直明けの休みの確保
06 必要時に勤務を交替してくれる人員の確保	09 他職種との分担による業務負担軽減
08 有給休暇の取得促進	11 短時間勤務の推進
10 時間外業務の縮減	
12 その他（	）

問4 貴施設には保育所または託児所がありますか？

01 ある	02 ない（⇒問7へ）
-------	-------------

《問4で「01 あり」と回答された施設のみ、問5及び問6にお答えください。》

問5 貴施設の保育所または託児所の平日の保育時間をお答えください。（24時間制でご記入ください）

時	分	～	時	分
---	---	---	---	---

※曜日によって保育時間帯が異なる場合は、最も長い保育実施曜日の時間帯を記入してください。

問6 貴施設の保育所または託児所で行っている取組を全てお答えください。

01 24時間保育	02 土曜日の保育	03 日曜祝日の保育
04 病児・病後児保育	05 一時保育	

問7 貴施設において、平成27年4月～平成28年3月の1年間に、以下の表のそれぞれの休業・勤務形態を取得・実施した医師の人数をお答えください。（いない場合は「0」人とお答えください。）

	男性医師	女性医師
産前・産後休業を取得		人
育児休業を取得	人	人
介護休業を取得	人	人
短時間勤務を実施	人	人

問8 医師の確保・定着に関する以下の取組のうち、貴施設で実施しているものを全てお答えください。

01 大学医局との連携	02 専攻医・常勤医師の公募採用
03 施設外での技術研修・留学等の支援	04 幹部職員としての採用手続き
05 給与の増額	06 職員用住居の整備
07 退職後の再雇用の推進	08 人材派遣会社を活用した募集
09 その他（	）

問9 医師以外のコメディカル職種の生産性の向上に関して、貴施設で実施しているものを全てお答えください。

01 有給休暇取得状況（職員全体の消化率等）の月次管理	02 超過勤務時間の月次管理
03 3年程度先の採用計画の策定	04 特定看護師等の採用
05 家族状況などに応じた勤務形態	06 職種間役割分担の定期的見直し
07 関連資格取得の支援	08 継続的教育の個別管理
09 その他（	）

問10 医療の質に関して、貴施設で指標として計測しているものを全てお答えください。

01 職員の予防接種率	02 職員の健診受診率
03 職員の喫煙率	04 年間のインシデント・アクシデントレポート総数
05 院内耐性菌サーベイランスの有無	06 CVカテーテルの感染率
07 院内褥瘡発生率	08 術後肺塞栓および深部静脈血栓症発生率
09 脳卒中患者の来院からCT等撮影までの平均時間（分単位）	
10 緊急血液検査所要時間（分単位）	11 その他（

◎ 最後に、どのようなことでも結構ですので、ご意見・ご提案があれば、ご記入ください。

※この欄の記載について報告書等への収録を（ 許可する ・ 許可しない ）

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて12月21日（水）までに投函してください。